



産業用除湿器 DH-11G

取付・取扱説明書

<はじめに>

この度は産業用除湿器DH-11Gをお買い上げ頂き、誠にありがとうございました。

本製品を安全にお使い頂く為には、定期的な保守点検作業が必要になりますので、この説明書をよくお読みください。

この説明書は保守の際に必要なとなりますので、必ず保存してください。

(目 次)

1.	安全上のご注意	2P
2.	製品の仕様	3P
3.	各部の名称	5P
4.	据付方法	6P
	4-1 DH-11G本体のみ設置	
	4-2 DH-11G + DH-P1(プレナムチャンバー)	
5.	施工	8P
6.	電気配線	9P
	6-1 電気回路図	
	6-2 除湿器外部発停信号入力の配線方法	
	6-3 湿度調節器の設置場所変更方法	
	6-4 ファン風量の切替方法	
7.	試運転	15P
8.	運転上の注意	16P
9.	メンテナンス	17P
10.	異常が発生した場合の点検、対処方法	18P
11.	補修部品図、部品交換基準	22P
12.	簡易点検(フロン排出抑制法)について	26P
13.	保証期間	28P

1. 安全上のご注意

- <取付及び取扱>は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行ってください。
- ここに示した注意事項は、**△警告**、**△注意** に区分していますが、誤った取付をした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結び付く可能性が大きいものを特に **△警告** の欄にまとめて記載しています。しかし、**△注意** の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- 取付工事完了後、試験運転を行い、異常がないことを確認するとともに本紙にそってお客様に使用方法、お手入れの仕方を説明してください。また、取付・取扱説明書は、お客様で保管頂くように依頼してください。

警告

- 取付工事は、お買い上げの販売店又は専門業者に依頼してください。ご自分で取付工事をされ不備があると水漏れや感電・漏電・火災の原因になります。
- 取付工事は、取付説明書に従って確実に行ってください。取付に不備があると、感電・漏電・火災の原因になります。
- 電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規定」及び取付説明書に従って施行し、必ず専用回路を使用してください。電源回路容量不足や施行不備があると感電、火災の原因になります。
- アースを必ず行ってください。アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アースが不完全な場合は、感電の原因になることがあります。
- 電源コードの抜き差しによる運転・停止を行わないでください。感電・火災の原因になります。
- 電源コードは埃が付着していないかを確認し、刃の根元まで確実に差し込んでください。埃が付着したり、接続が不完全な場合は感電・火災の原因になります。
- 電源コードは、途中で接続したり延長コードの使用、他の電気器具とのタコ足配線をしないでください。感電・火災の原因になります。
- 電源コードを破損させたり加工しないでください。重いものを載せたり引っ張ったりすると破損し感電・火災の原因になります。
- 吹出口に指や棒をいれしないでください。内部でファンが回転しているのでケガの原因になります。
- 可燃性スプレーや有機溶剤を近くで使用しないでください。火災・爆発の原因になります。
- 電熱器具を近くで使用しないでください。ユニットが過熱し、感電・火災の原因になります。
- 異常時(焦げ臭いなど)は、運転を停止して電源プラグを抜き、お買い上げの販売店へご連絡ください。異常状態のまま運転を続けると、故障や感電・火災の原因になります。
- 修理はお買い上げの販売店へご連絡ください。修理に不備があると感電・火災の原因になります。
- メンテナンスをする時は必ず運転を停止して、必ず電源コードを抜いてください。電源コードを抜かないでメンテナンスすると、ケガや感電の原因になることがあります。又、運転直後はドレン水が出るので、充分時間を置いてからメンテナンスしてください。
- 正しい容量のヒューズ以外は使用しないでください。針金や銅線を使用すると故障や火災の原因になることがあります。

注意

- 取付は、床が丈夫で水平な所で行ってください。使用中に機器が倒れると、内部の水が室内にこぼれて家財などを濡らしたり、感電・火災の原因になります。
- 取付は、狭い場所に設置しないでください。風通しが悪くなり、発熱・発火の原因になります。
- 取付は、油・可燃性ガスの漏れる恐れのある場所への設置は行わないでください。万一ガスが漏れてユニット周囲に溜まると、発火の原因になります。
- 屋内専用となります。直射日光の当たる場所で使用すると発熱や感電・火災の原因になります。
- 水のかかる所で使用しないでください。水がかかると感電・火災の原因になります。
- 排水配管は取付説明書に従って確実に排水するように配管してください。排水ホースが折れ曲がっていたりトラップがあると排水不良となり、家財を濡らしたり感電・火災の原因になります。
- 排水ホースの周囲温度が氷点下以下になる場合は使用しないでください。ホース内部の水が凍結し排水不良となり、家財を濡らしたり感電・火災の原因になります。
- 吹出口からの風が直接当たるところに燃焼器具を置かないでください。燃焼器具の不完全燃焼の原因になります。
- ユニットの上に花瓶などを載せないでください。万一倒れて、水がユニットと内部に入ると電気絶縁が劣化し、感電・漏電・火災の原因になることがあります。
- 運転したまま移動しないでください。内部の水がこぼれて家財などを濡らしたり、感電・漏電・火災の原因になります。
- 吸込口、吹出口、放熱口を塞がないでください。除湿能力低下や発熱・発火の原因になります。
- 除湿器を倒さないでください。内部の水がこぼれて家財などを濡らしたり、感電・漏電・火災の原因になります。
- 長期間ご使用にならない場合は、安全のため電源コードを抜いておいてください。埃がたまって発熱・発火の原因になります。
- ユニットは水洗いしないでください。感電の原因になります。
- 腐食性物質を発生させる可能性のある物(例：線香)の乾燥などには使用しないでください。熱交換器が腐食して故障の原因になります。
- 運転中及び運転後は、本体が熱くなることがありますのでお気をつけ下さい。

2. 製品の仕様

表2-1 仕様表

製品名	DH-11G
除湿能力 (50/60Hz)	29/32 [L/d] (27°C, 60%RHの場合)
電源	1φ100 [V] (50/60Hz)
消費電力 (50/60Hz)	675/800 [W]
運転電流 (50/60Hz)	8.0/8.3 [A]
圧縮機出力	600 [W]
送風機出力	15 [W]
風量 (50/60Hz)	5.5/6.0 [m ³ /min]
騒音値 (50/60Hz)	47/49 [dB (A)]
製品重量 (フレナムチャンバ-無し)	38 [kg]
製品重量 (フレナムチャンバ-有り)	48 [kg]
外形寸法 (フレナムチャンバ-無し)	621 × 430 × 484 [mm] (高さ × 幅 × 奥行)
外形寸法 (フレナムチャンバ-有り)	821 × 430 × 484 [mm] (高さ × 幅 × 奥行)
使用可能温度	1~40°C※1
使用冷媒	HFC (R-407C)
冷媒封入量	550 [g]
GWP 値	1774
二酸化炭素換算値	0.976 [トン]
塗装色	本体 : マンセル 1Y8.5/0.5 底部 : マンセル N3
安全装置	オーバーカレントリレー オーバーロードリレー 3分間再起動遅延タイマー
付属品	取付・取扱説明書 : 1冊 (本紙) ドレンホース (内径φ15 × 外径φ19) : 1m (1本)
オプション別売品	DH-D1 (ダクト吹出しセット)※2 DH-FD1 (フレキシブル吹出しセット) DH-CT1 (キャスターキット)

※1 吸込温度が40°Cを超える所では、安全装置が働き運転できません。

※2 機外圧損が30/50Pa (50/60Hz) 以下となるように接続ダクト部材を選定してください。
詳細は、DH-D1に付属されている取付説明書を参照ください。

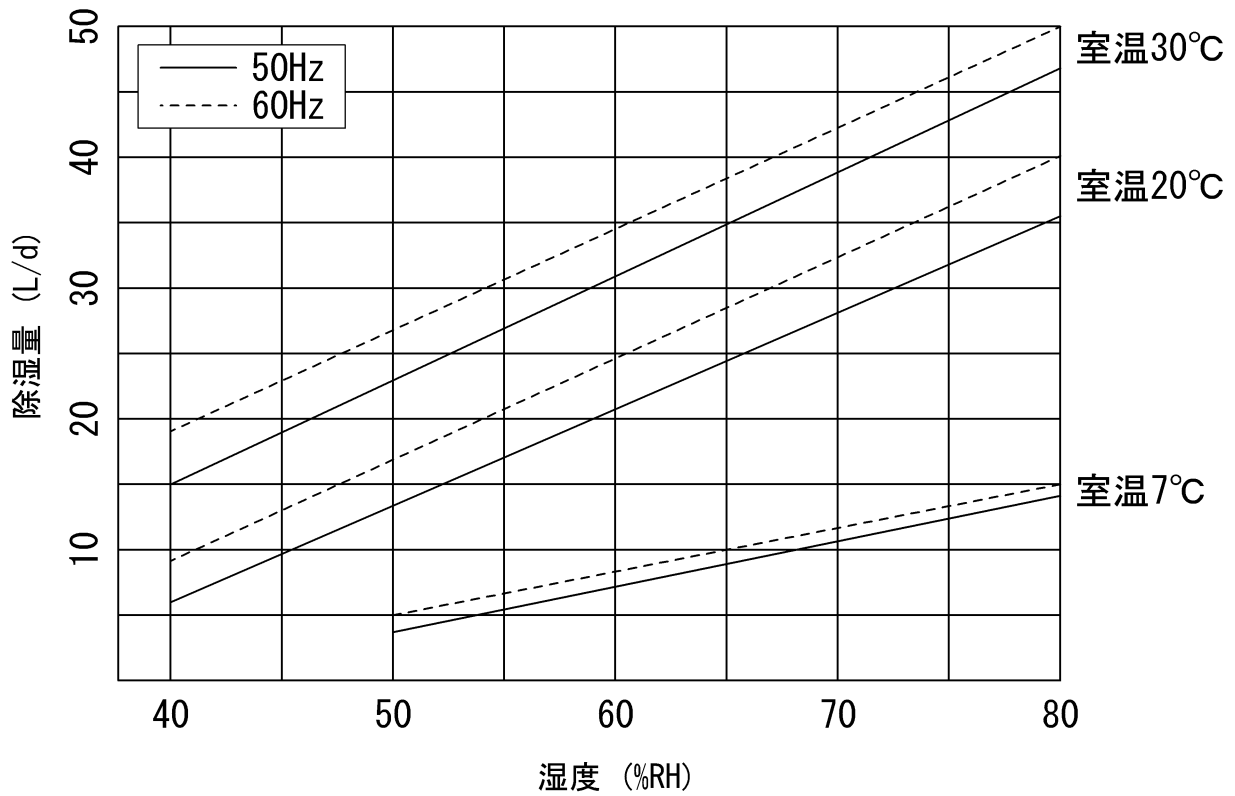


図2-1. 除湿機(DH-11G)の除湿量

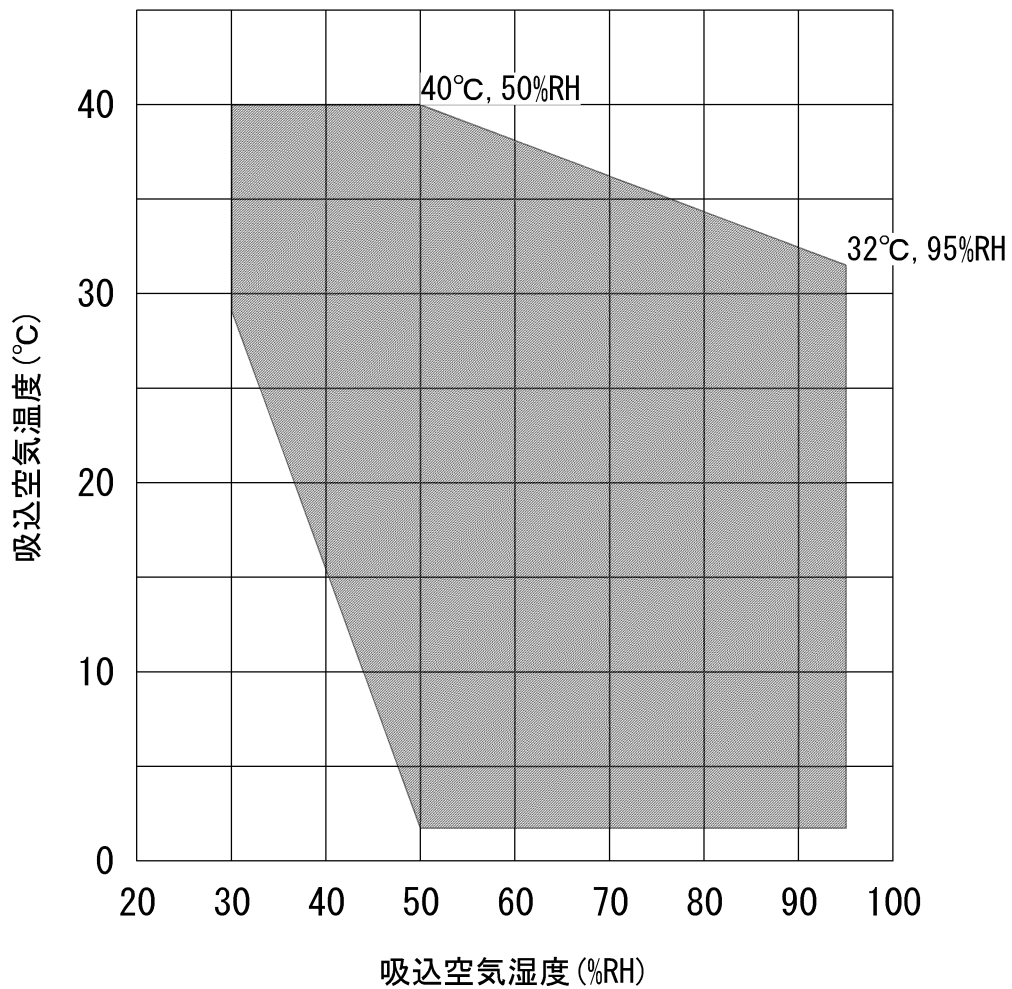
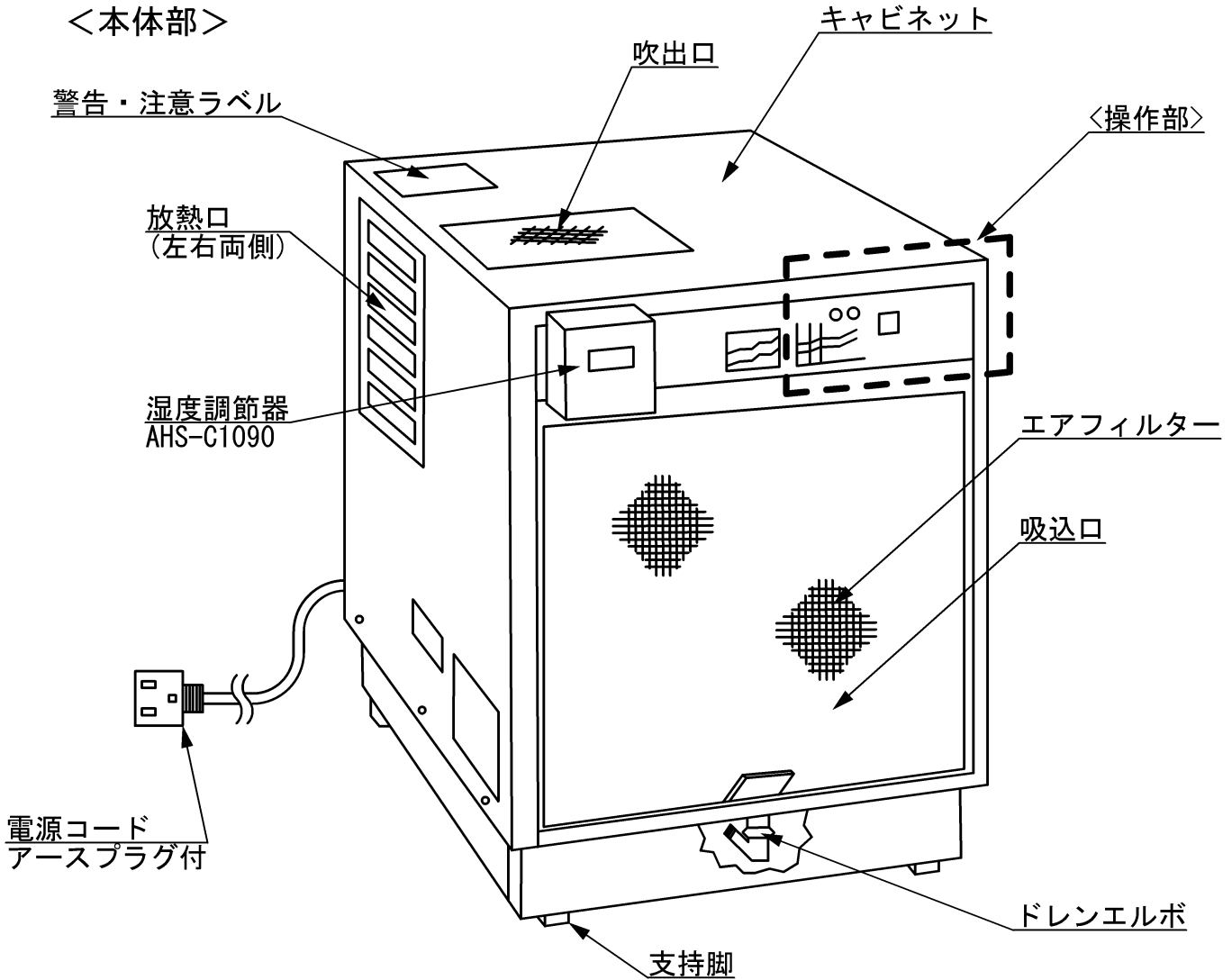


図2-2. 除湿機(DH-11G)の運転可能範囲

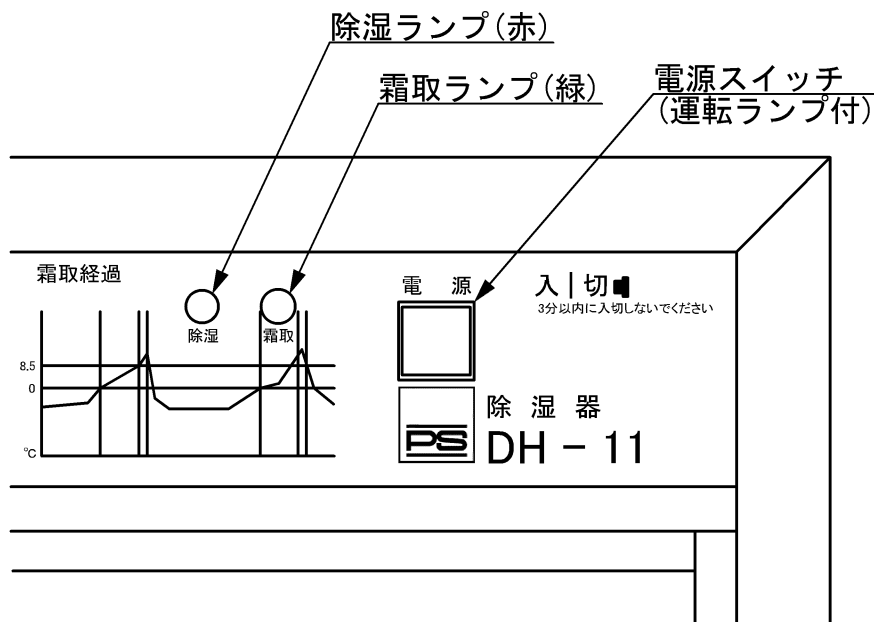
3. 各部の名称

<本体部>



<操作部>

<操作部>



4. 据付方法

標準的な据付方法については、下記の通り2パターンあります。
予定されている設置方法について参照頂き、設置作業を行ってください。

4-1. DH-11G本体のみ設置

4-2. DH-11G + DH-P1(プレナムチャンバー)設置

※オプション別売り部品の設置方法については、各オプション別売り部品に
付属されている取付説明書を参照頂き、設置作業を行ってください。

<オプション別売り部品>

- ・DH-D1(ダクト吹出しセット)
- ・DH-FD1(フレキシブル吹出しセット)
- ・DH-CT1(キャスターキット)

4-1. DH-11G本体のみ設置

水平な面に据付を実施してください。据付位置が水平でない場合、正常な動作を行わなくなる場合があります。また、下図のように周辺スペースが必要となります。

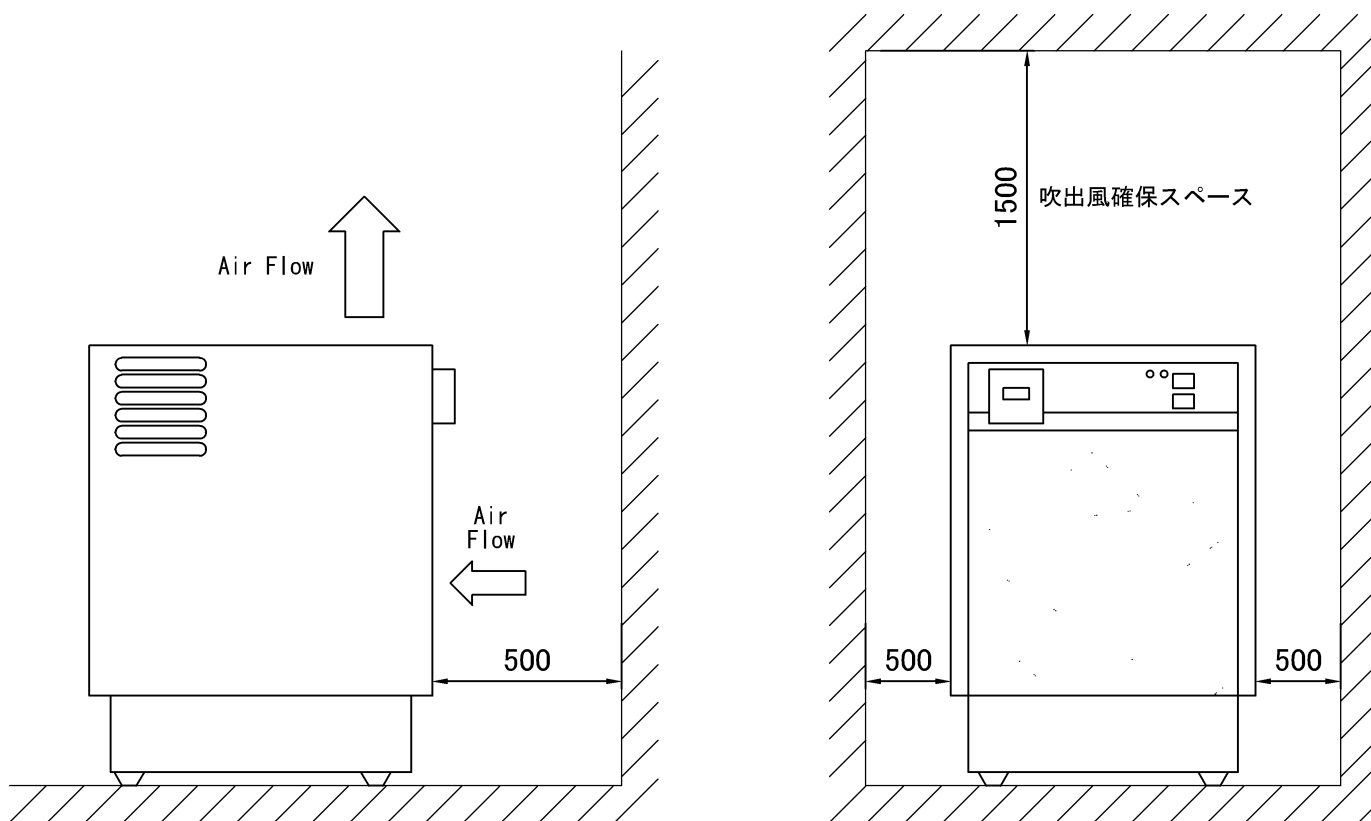


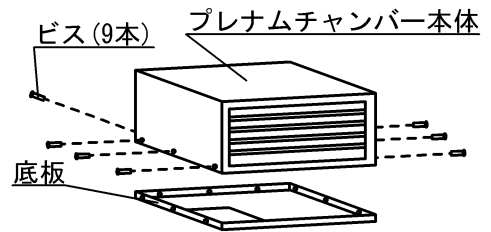
図4-1. 据付周辺スペース(DH-11G本体のみ設置)

4-2. DH-11G + DH-P1 (プレナムチャンバー) 設置

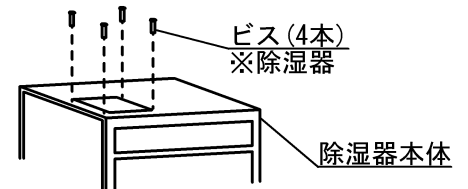
DH-11G本体は水平な面に据付を実施してください。据付位置が水平でない場合、正常な動作を行わなくなる場合があります。

〈DH-P1取付手順〉

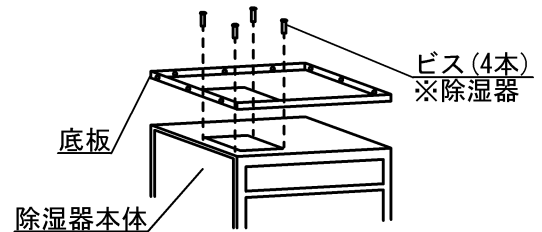
- (1) プレナムチャンバー側面のビス×9本を外し、プレナムチャンバー本体と底板に分割します。



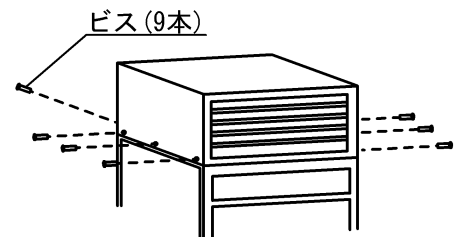
- (2) DH-11G上面についているビス×4本を外します。



- (3) (2) で外したビス×4本を用いて、底板を除湿器上面に取り付けます。



- (4) (1) で外したビス×9本を用いて、プレナムチャンバー本体を元のように底板に取付けて完了となります。



〈周辺スペース〉

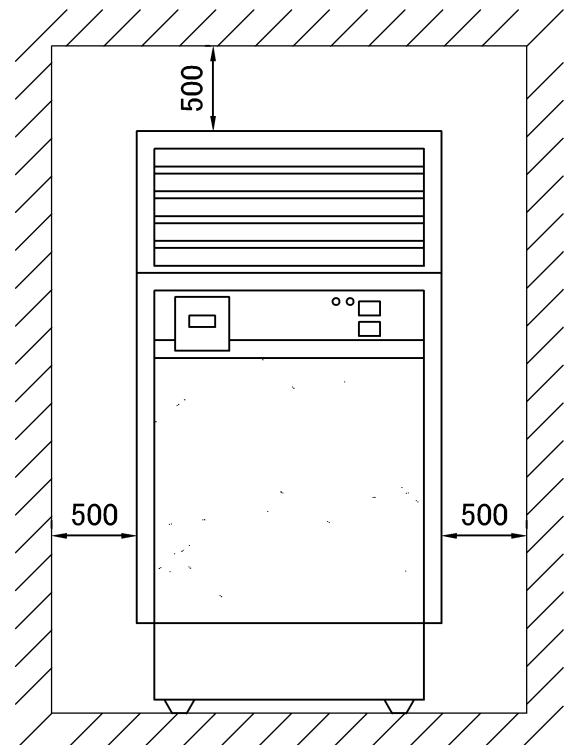
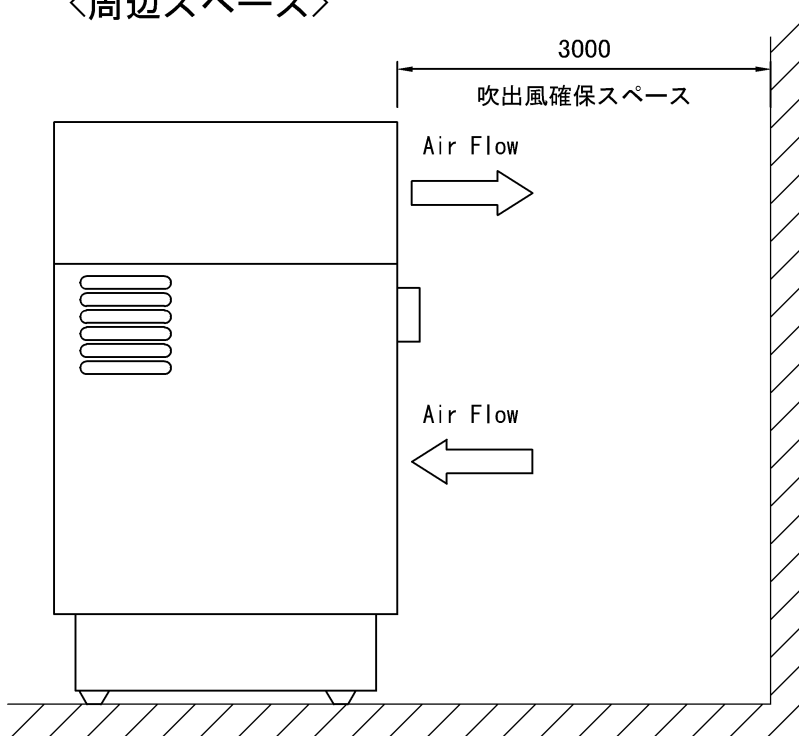


図4-2. 据付周辺スペース (DH-11G+DH-P1設置)

5. 施工

除湿後のドレン水を排水するため、ドレンホースを施工する必要があります。付属されているドレンホース(内径φ15×外径φ19)をドレンエルボ先端のホースニップルに接続してください。

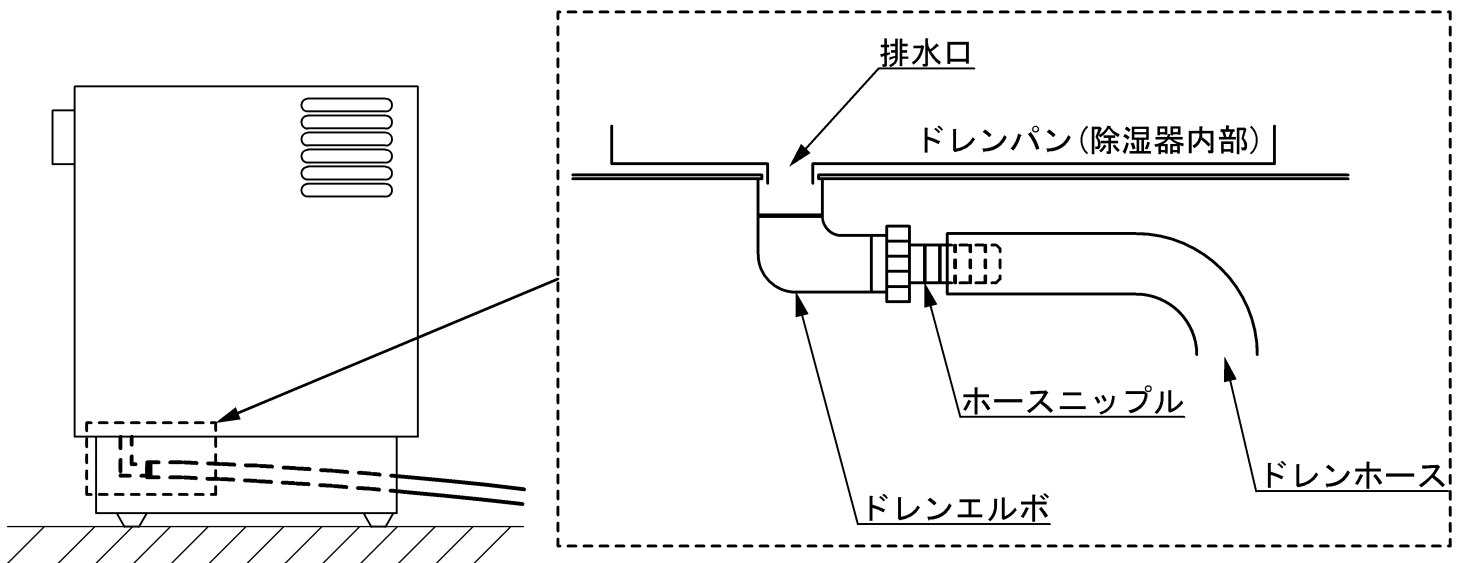


図5-1. 標準的な施工例(ドレンホース接続図)

<ドレンホース施工時の注意事項>

下記項目について、注意しながらドレンホースを施工してください。

- ・排水ホース途中にトラップ(アップダウン)施工をしない
→排水不良により、除湿器のドレン水が溢れる可能性があります
- ・ドレンホース接続先排水口の通気を確保する
→通気不良による排水不良が発生し、除湿器のドレン水が溢れる可能性があります

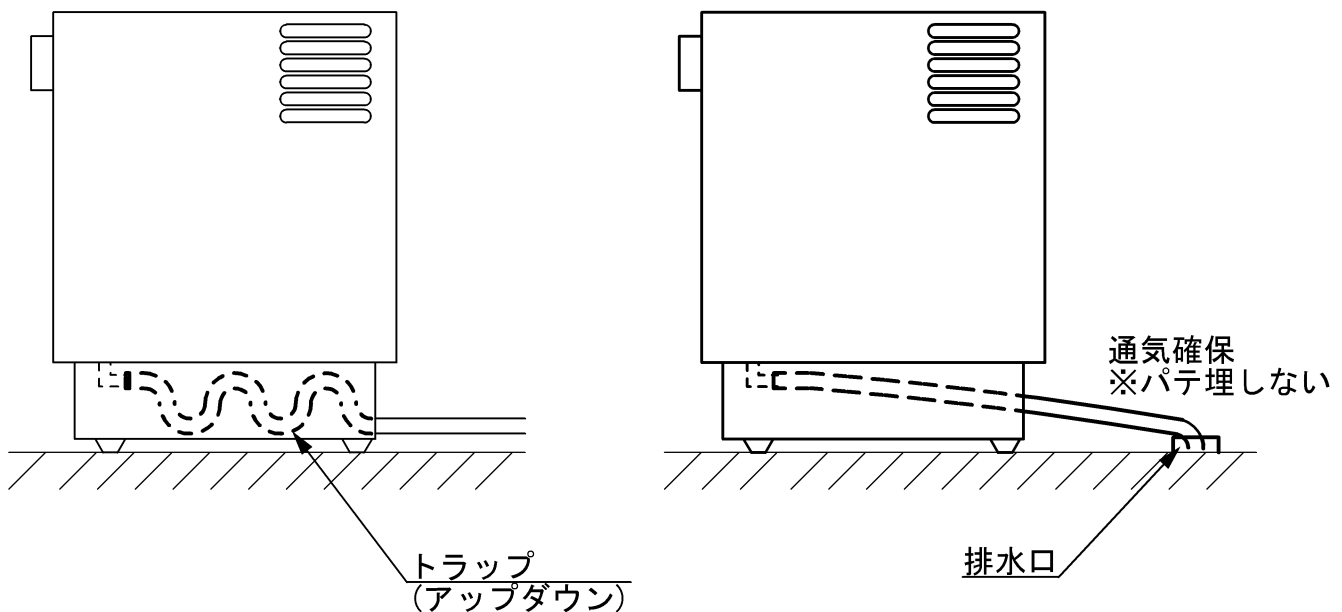


図5-2. 排水不良が発生する施工例

6. 電気配線

6-1. 電気回路図

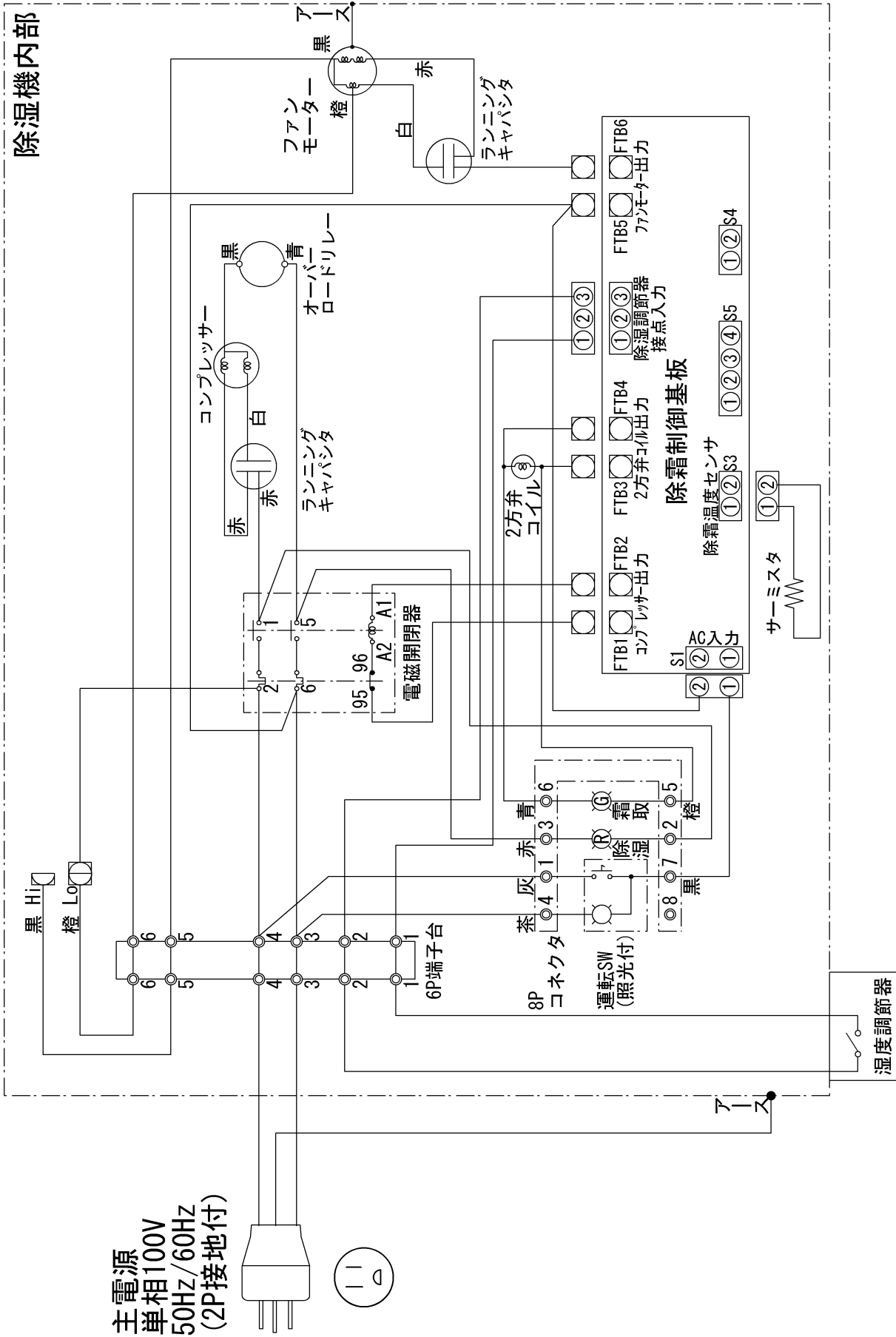


図6-1. DH-11G 電気回路図

6-2. 除湿機外部発停信号の入力配線方法

除湿機の運転/停止を、外部信号入力(外部スイッチ等)を用いて行いたい場合、下記のように配線を行います。

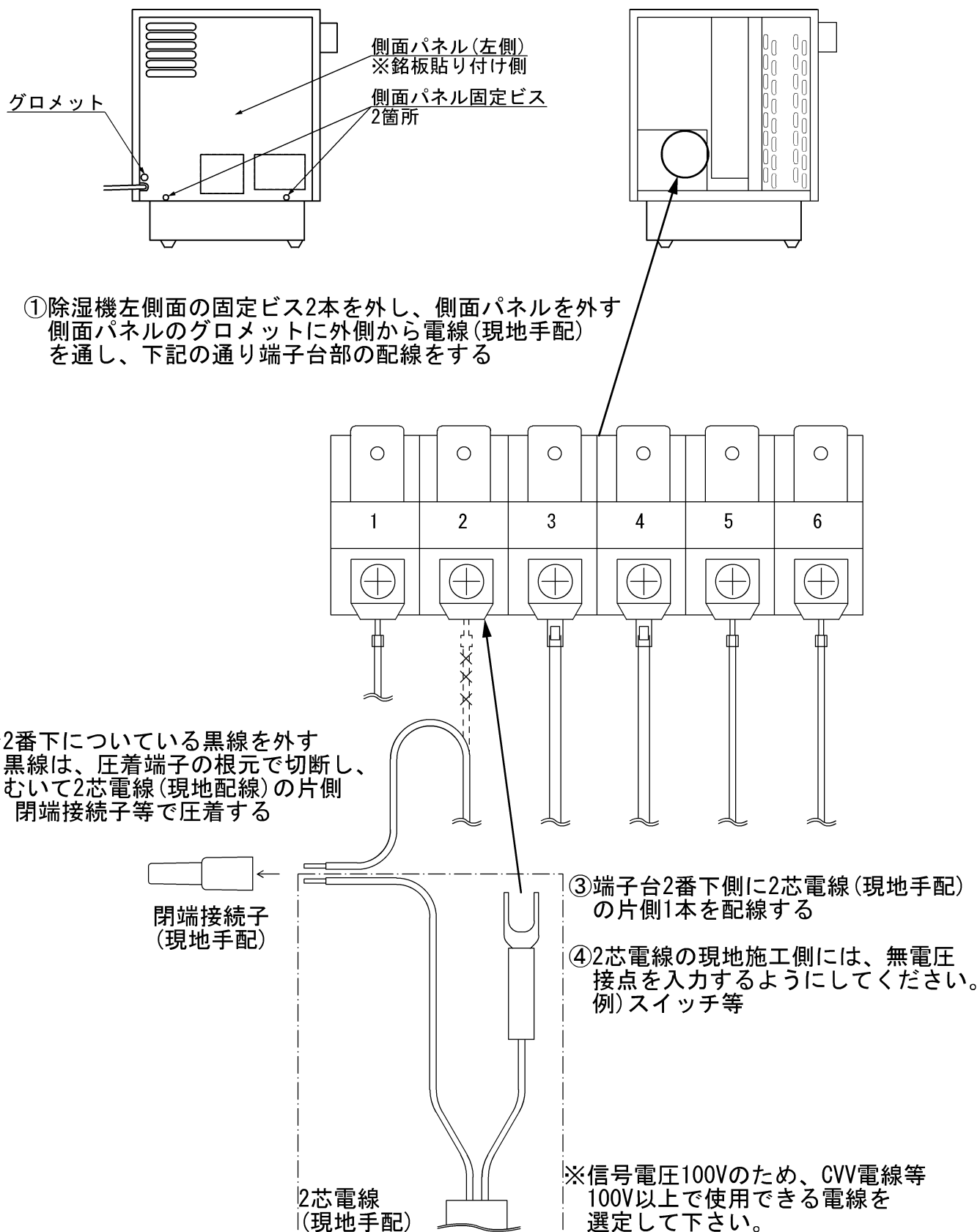
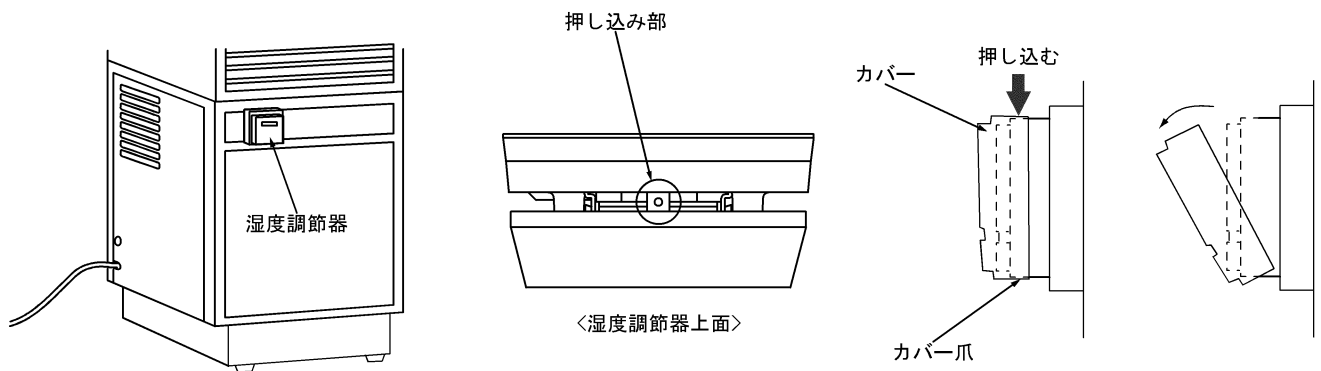


図6-2. 除湿器外部発停信号入力配線の配線方法

6-3. 湿度調節器の設置場所変更方法

除湿機の湿度調節器(ヒューミディスタット)を任意の場所に設置が可能です。
下記のように湿度調節器の取外し、設置および配線を行います。



①湿度調節器上面の押し込み部を押し、カバーを外す

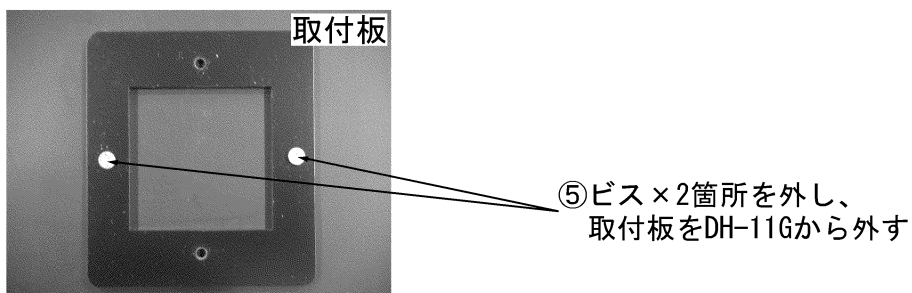
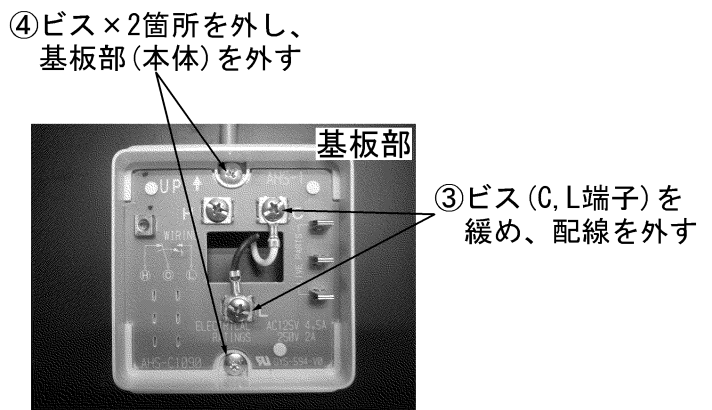
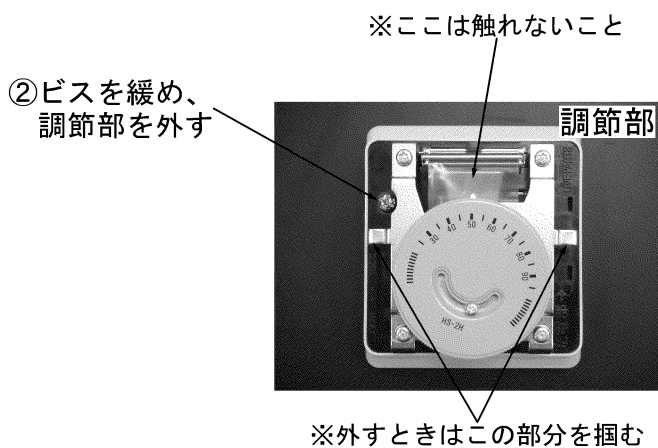
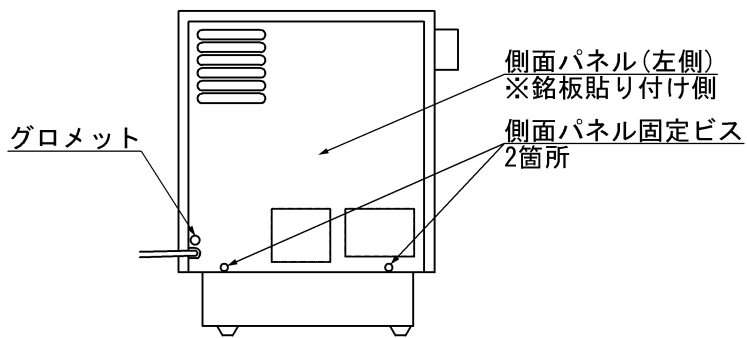
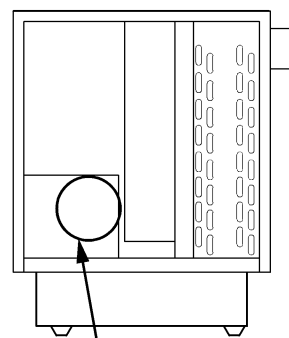


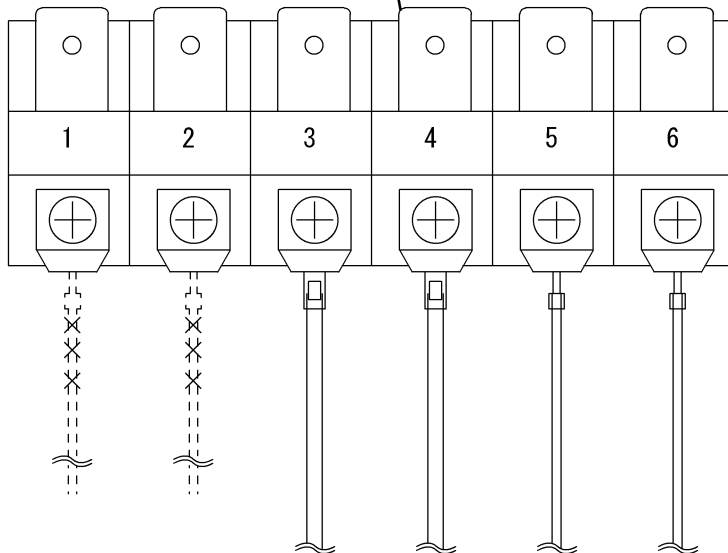
図6-3. 湿度調節器の取外し方法



⑥除湿機左側面の固定ビス2本を外し、側面パネルを外す



⑦端子台1, 2番下の配線を外し、電線ケーブルを除湿器内から撤去する



⑧側面パネルのグロメットに外側から電線(現地手配)を通し、下記の通り端子台部の配線をする

⑨湿度調節器用の2芯電線(現地配線)を端子台1, 2番下に配線し、設置予定場所まで電線を伸ばしておく

⑩①～④の逆の手順で、2芯電線を湿度調節器に配線し、壁面に設置する
※配線時注意(C, L端子に配線)

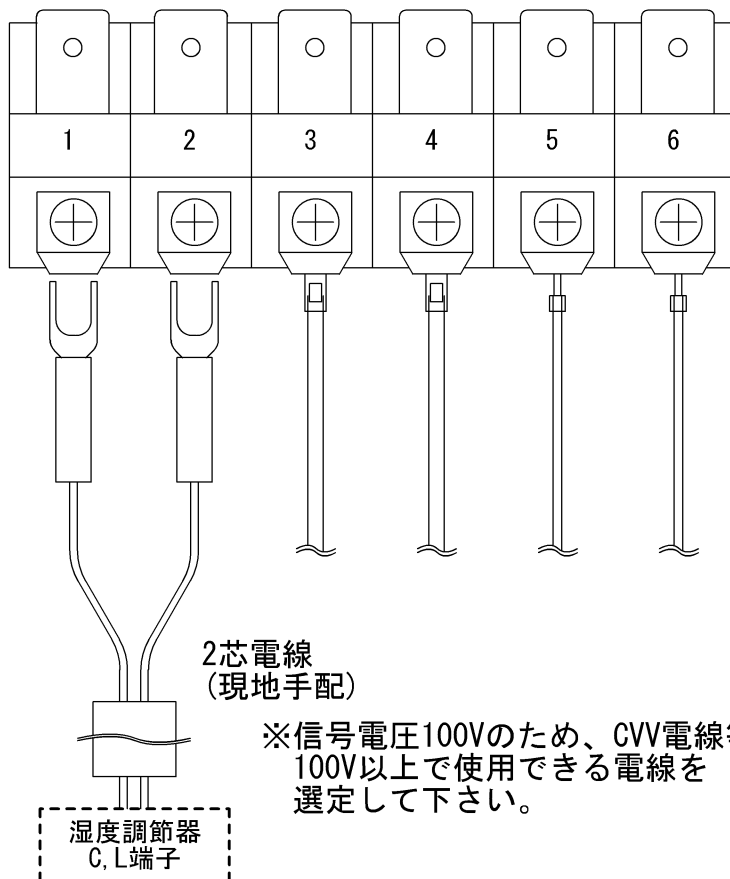


図6-4. 湿度調節器用電線の配線方法

(注意)湿度調節器の設置場所に関して

- ・ 設置場所は、吸込口近辺の室内湿度を検知し易い位置に設置してください。
※吹出口近辺に設置すると、温度上昇で誤作動する場合があります。
- ・ 壁面設置にて、露出配線取出しの場合、オプション別売り品の「AHS用壁金具(配線露出用)」をご使用ください。

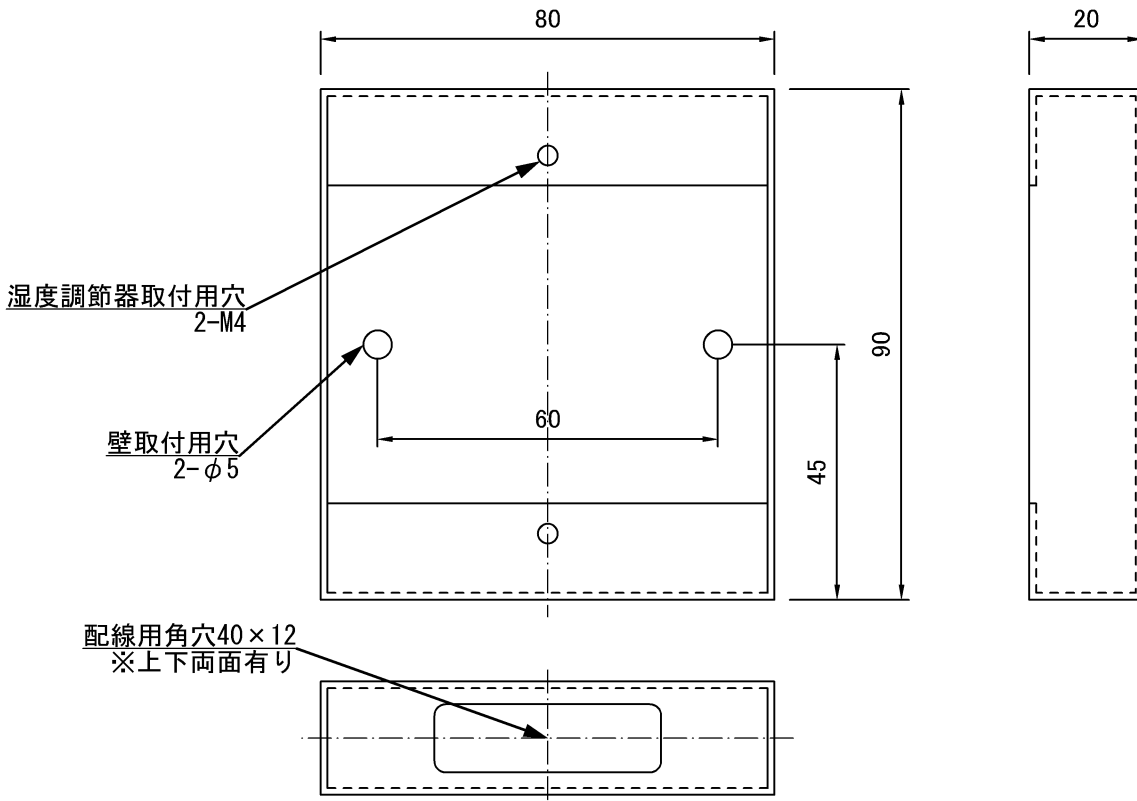


図6-5. AHS用壁金具(配線露出用)外觀仕様図

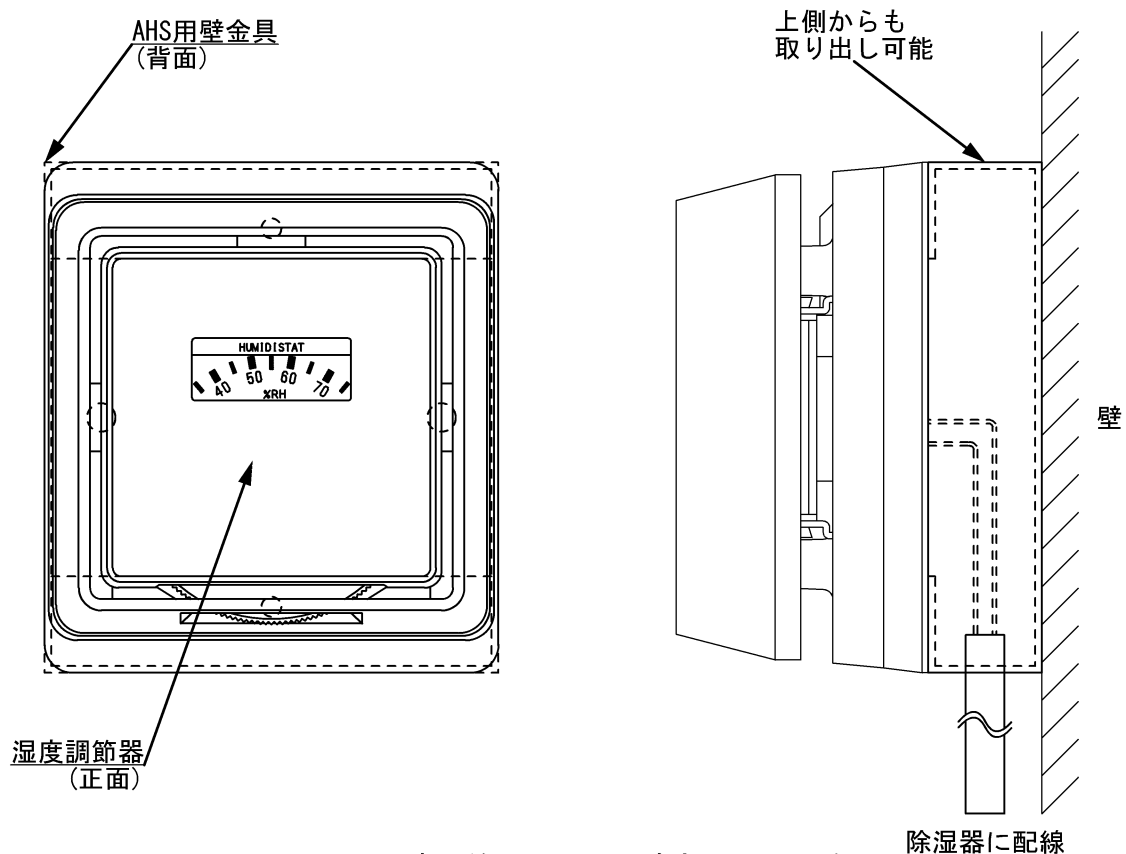


図6-6. 湿度調節器+AHS用壁金具 取付例

6-4. ファン風量の切替方法

除湿機の設置状況に応じて、ファン風量切替が可能です。

※別売リオプションDH-D1, DH-FD1取付時のみ風量切替を実施してください。

DH-D1, DH-FD1取付時、設置ダクトによる圧力損失が発生するため、風量確保のためにファンの風量切替(Lo→Hi)を行います。

DH-11G正面左側の側面パネルを外し、機内端子のコネクタリード(橙)に接続されているリード線(橙)をコネクタリード(黒)に切り替えてください。

作業時は、必ずコネクタ部を持って作業してください。

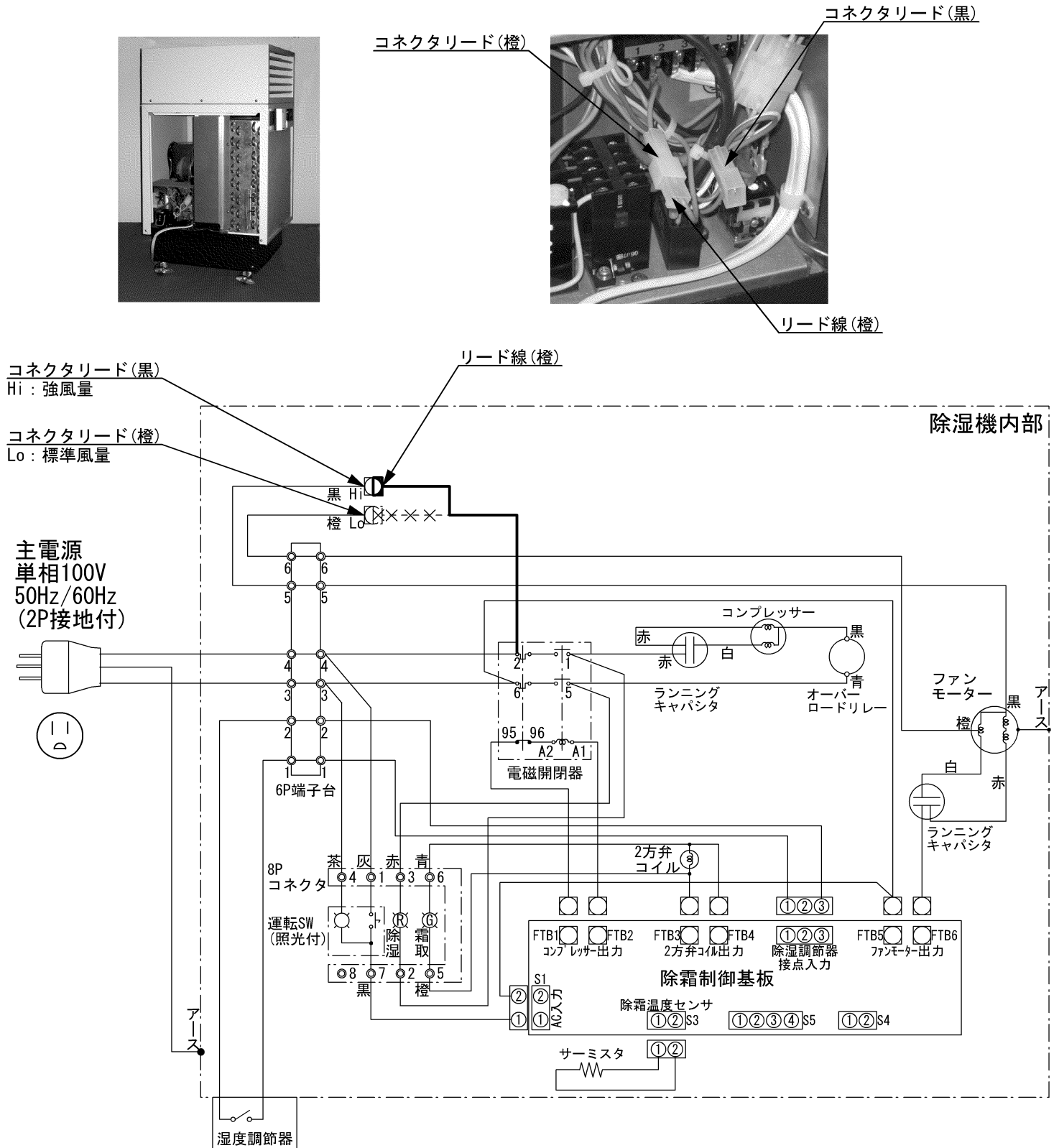


図6-7. ファン風量切替方法

7. 試運転

次の手順に従って、試運転を実施してください。

- (1) コンセントプラグをコンセントに差し込んでください。
- (2) 湿度調節器のダイヤルを動かし、低湿度側(運転ON条件)に設定してください。
- (3) 除湿機の電源スイッチを押し、ファンが運転することを確認してください。
- (4) 電源スイッチを押してから3分後、コンプレッサー運転が開始して除湿ランプが点灯し、熱交換器(エアフィルター裏)が冷えることを確認してください。

〈熱交換器の確認方法〉

- 手順① フィルター下部のつまみを持って持ち上げる
- 手順② 手前に引いてフィルターを外す
- 手順③ 熱交換器が冷えることを確認

〈湿度調節器〉

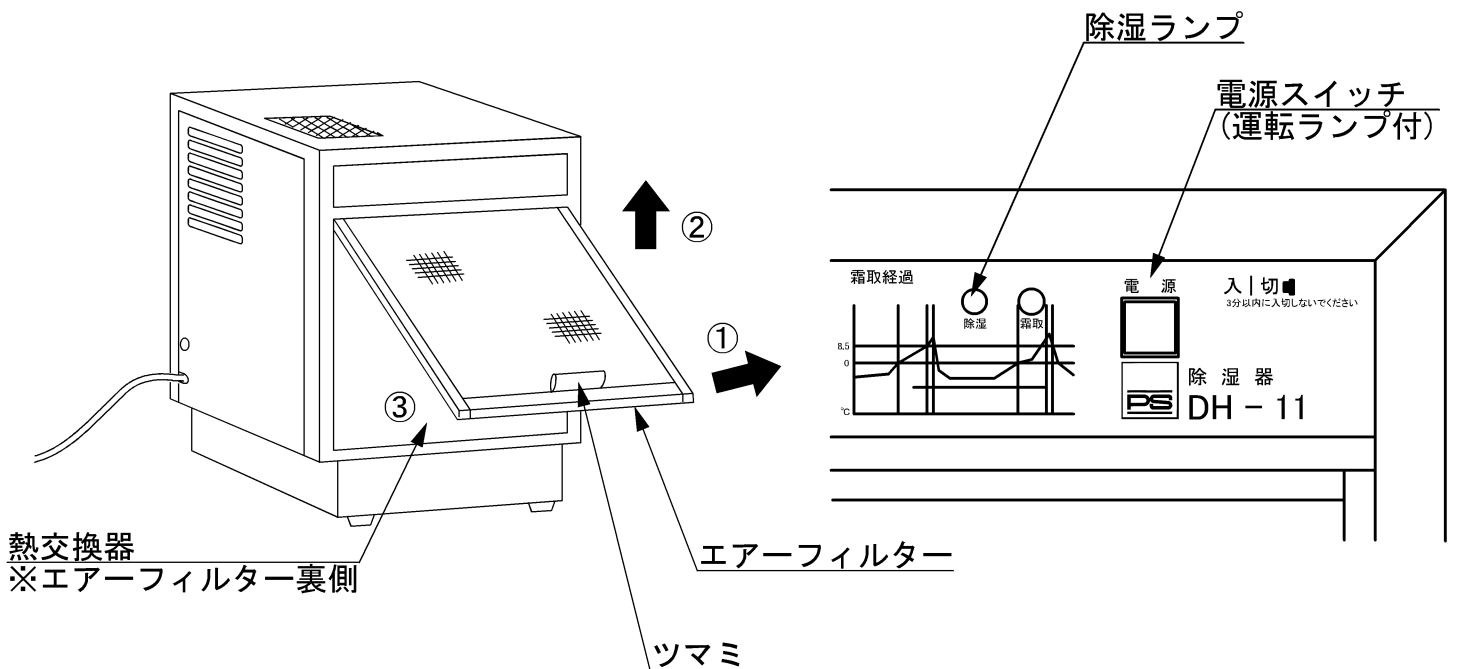
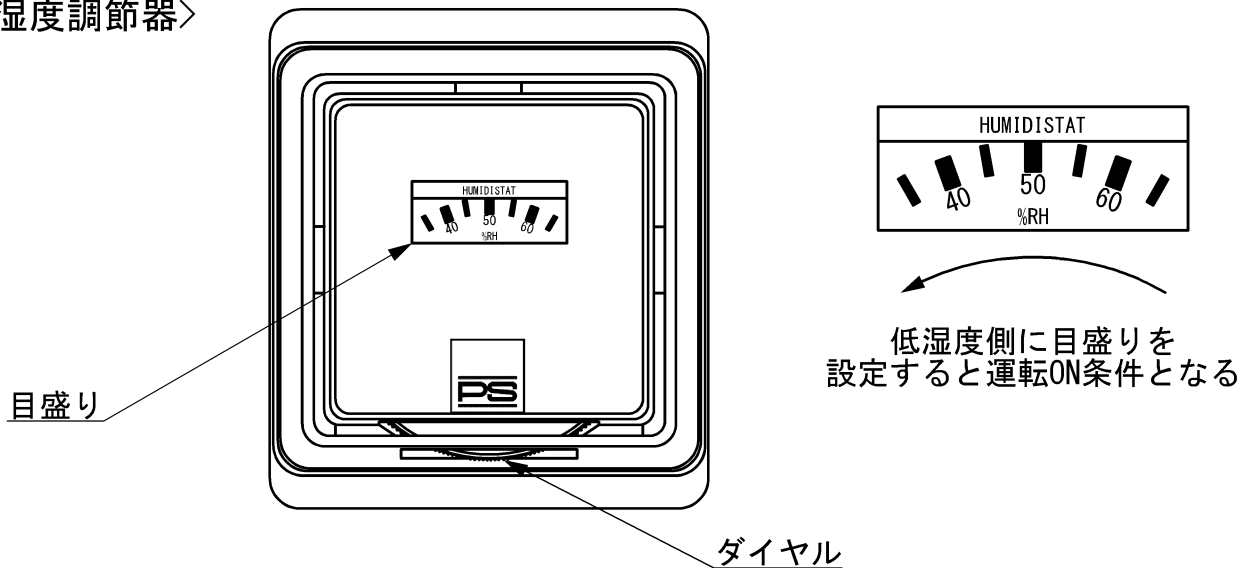


図7-1. 除湿機試運転要領

8. 運転上の注意

運転上の注意について、下記3点についてご注意ください。

- (1) ファン、コンプレッサー(除湿動作)のON/OFF動作(運転スイッチ投入後)
- (2) コンプレッサーの再起動遅延
- (3) 除霜運転について

- (1) ファン、コンプレッサー(除湿動作)のON/OFF動作(運転スイッチ投入後)
 運転スイッチ投入後、湿度調節器の設定値(周囲湿度)によって、
 除湿器運転中のファンとコンプレッサーのON/OFF動作が変わります。
 下表の通りとなりますので、ご確認ください。

除湿器動作	ファン	コンプレッサー
運転スイッチ投入後(約3分間)	ON	OFF
除湿ON条件(周囲湿度が設定値より高い) 注)運転スイッチ投入から3分経過後	ON	ON
除湿OFF条件(周囲湿度が設定値より低い) 注)運転スイッチ投入から3分経過後	OFF	OFF

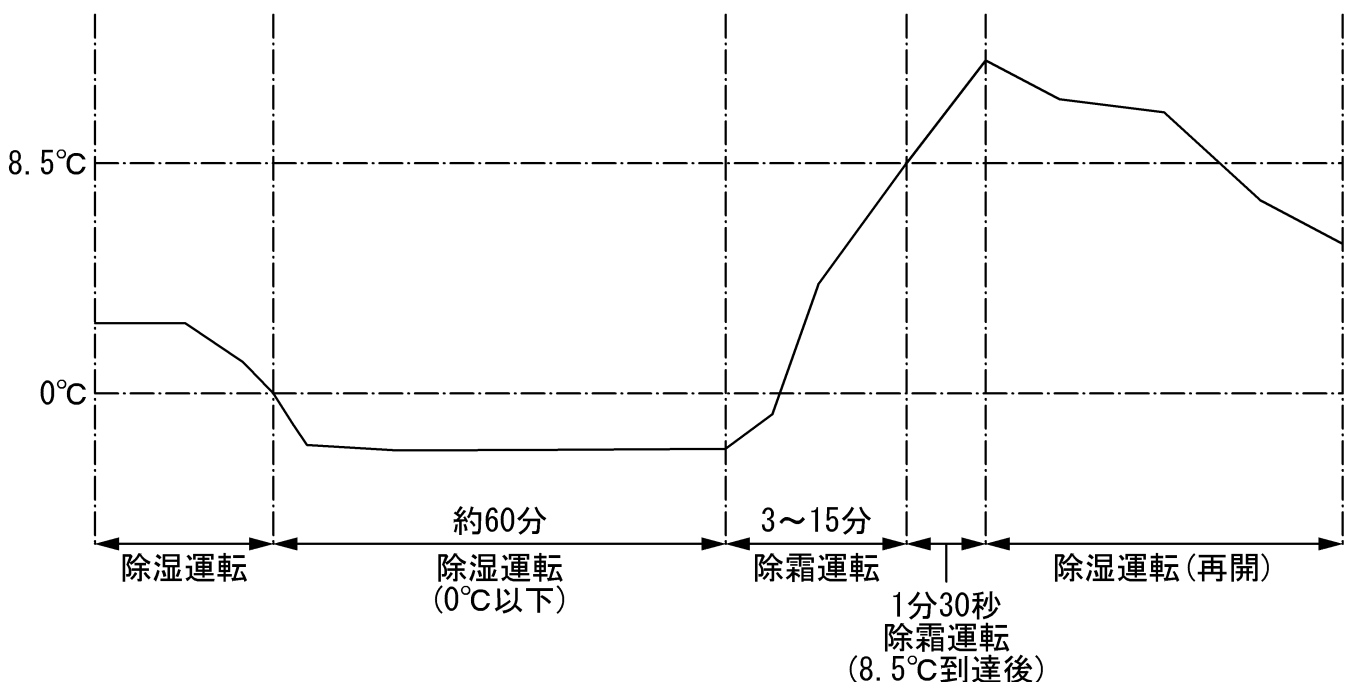
- (2) コンプレッサーの再起動遅延

除湿運転が一度OFFになった後にすぐON条件になった場合、コンプレッサー保護のためにコンプレッサー停止から約3分間の間、除湿運転を開始しない機能

除湿器動作	ファン	コンプレッサー
再起動遅延時 ※コンプレッサー停止後、すぐにON条件移行時	OFF	OFF

- (3) 除霜運転について

本機には、蒸発器の表面に付着した霜を自動的に除く除霜機能があります。蒸発器温度が 0°C 以下になった時間が、約60分になると除霜運転に入ります。蒸発器の霜が溶けてなくなった後、冷却器が 8.5°C になってから1分30秒後に除湿運転に切り替わります。除霜完了までに要する時間は温度・湿度による変化はほとんどありませんが、蒸発温度が 0°C 以下になりやすい環境(低温環境)であれば、定期的に除霜運転が行われます。



9. メンテナンス

メンテナンス時は、必ずコンセントプラグを抜いた状態で作業してください。

<除湿機エアフィルター清掃、交換>

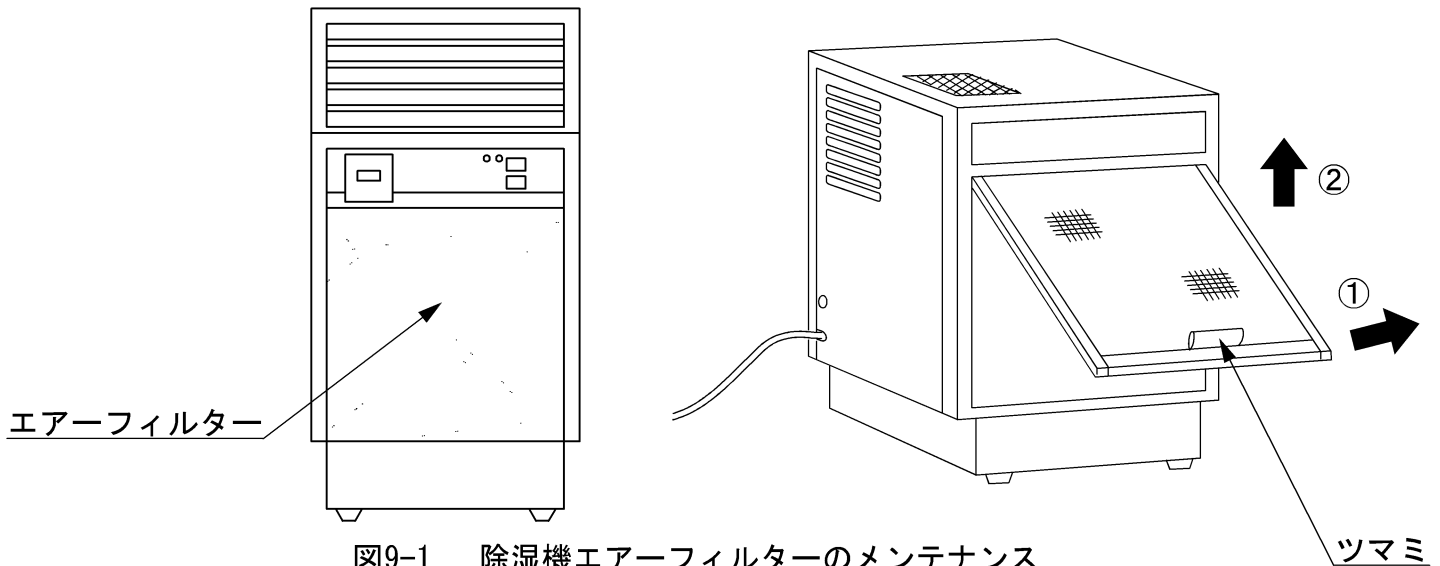
エアフィルターにホコリが詰まると、除湿能力低下の原因となります。

定期的に(2週間ごと推奨)清掃してください。(交換目安:1年に1回)

手順①フィルター下部のつまみを持って持ち上げる

手順②手前に引いてフィルターを外す

手順③清掃する場合、フィルターの埃は軽くたたいたり、掃除機等で落としてください。汚れは、40℃以下のぬるま湯等に浸けて洗ってください。



<ドレン配管の清掃>

ドレン配管(ドレンエルボ、ドレンホース)の中が汚れて詰まってくると、排水不良となりドレン水が除湿器から溢れる可能性があります。

定期的に(半年に1回)ホース内の汚れを確認し、汚れていたら、取り外して水洗い等にて清掃してください。

※市販のエアコン用ドレンホースクリーナー等で清掃も可能です。

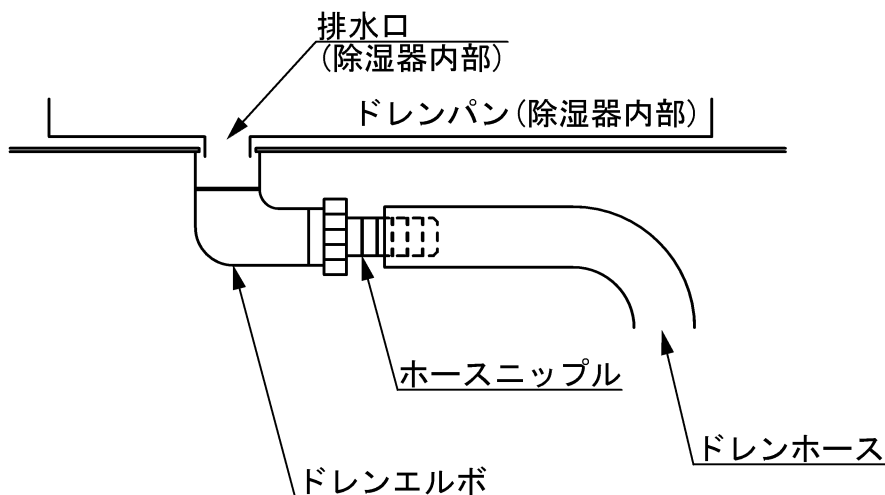


図9-2. ドレンホース接続部詳細

<湿度調節器(ヒューミディスタット)の交換>

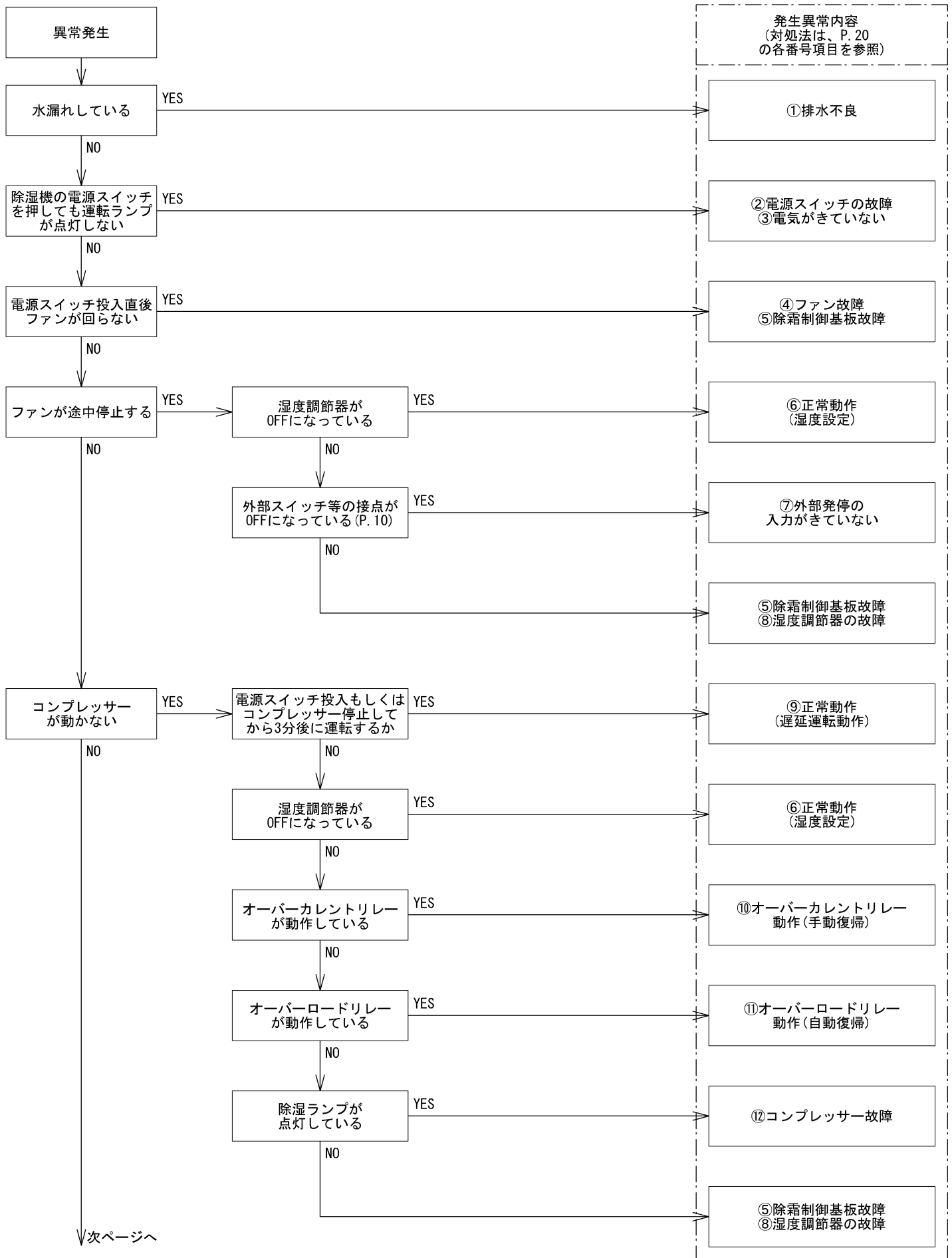
湿度調節器は、経年劣化によって湿度感知機能が低下します。

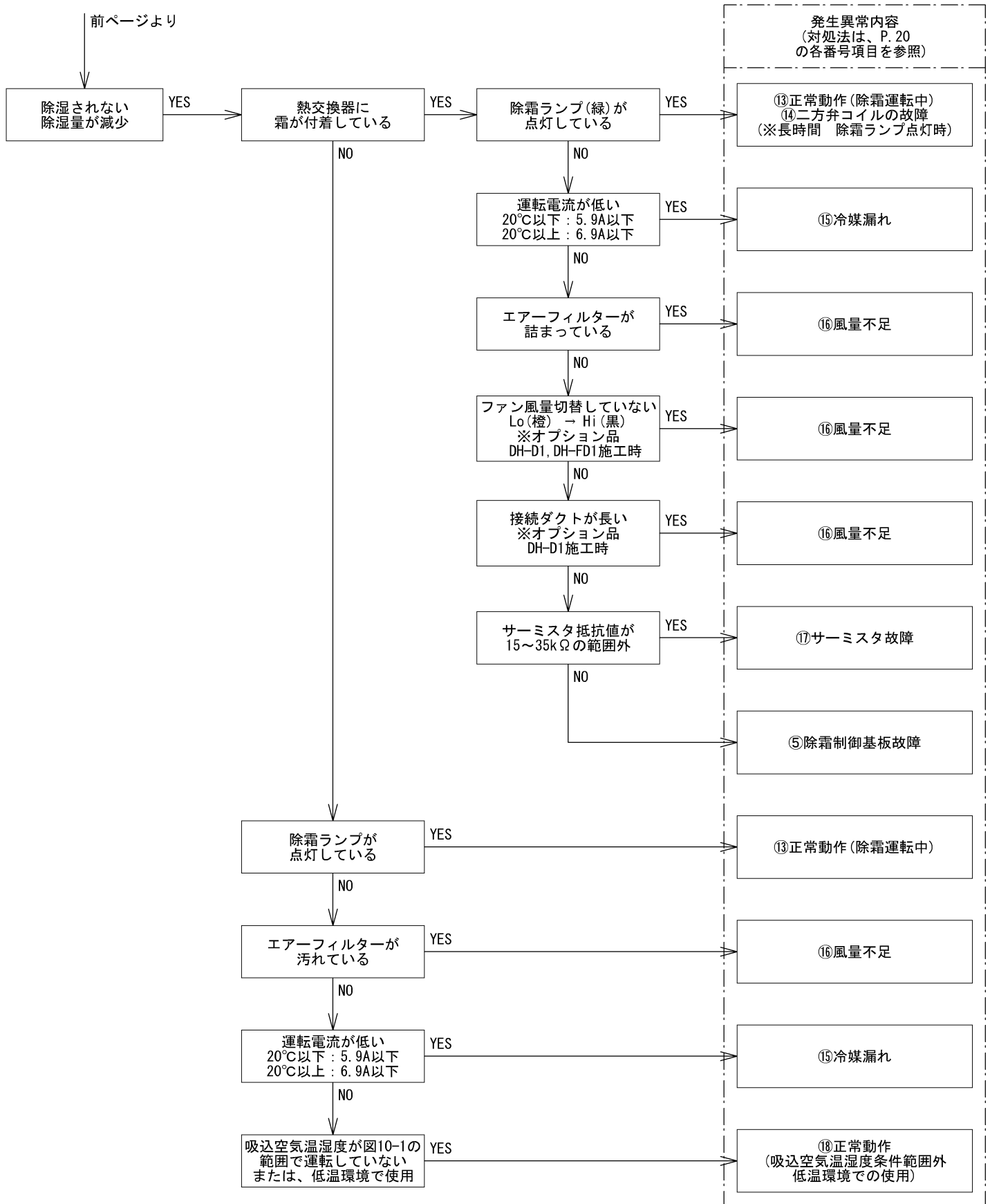
安定した湿度調節のため、3年に1回を目安に交換してください。

交換方法は、P.11「湿度調節器の取外し方法」を参照ください。

10. 異常が発生した場合の点検、対処方法

サービスをお申し付けの前に、次の点をお調べください。





<異常の場合の原因詳細>

	異常内容	原因	対処方法
①	排水不良	<ul style="list-style-type: none"> ・ドレンホースの施工不良(トラップ) ・ドレンエルボ、ドレンホースの汚れ、詰まり 	<ul style="list-style-type: none"> ・ドレンホースの施工確認(P. 8参照) ・ドレンエルボ、ホースの清掃(P. 17参照)
②	電源スイッチの故障	<ul style="list-style-type: none"> ・経年劣化による故障 	<ul style="list-style-type: none"> ・電源スイッチの交換
③	電気がきていない	<ul style="list-style-type: none"> ・元電源の配電盤でブレーカが動作している ・ブレーカが上がっていない ・停電中 ・コンセントにプラグを差していない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ブレーカが動作している場合は、動作原因を取り除きブレーカを入れる ・停電の回復 ・プラグを差し込む
④	ファン故障	<ul style="list-style-type: none"> ・経年劣化、異常発生による故障 	<ul style="list-style-type: none"> ・ファンの交換(修理依頼)
⑤	除霜制御基板の故障	<ul style="list-style-type: none"> ・経年劣化、異常発生による故障 	<ul style="list-style-type: none"> ・除霜制御基板の交換
⑥	正常動作 (湿度設定)	<ul style="list-style-type: none"> ・湿度調節器の設定が高湿度側に設定されており、運転条件がONになっていないため 	<ul style="list-style-type: none"> ・運転条件がONになると、運転開始(P. 16参照)
⑦	外部発停の 入力がきていない	<ul style="list-style-type: none"> ・外部発停信号入力配線(P. 10)をしている場合外部スイッチ等の接点がOFFになっている 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部スイッチ等の接点をONにする ・配線間違いを修正(P. 10参照)
⑧	湿度調節器の故障	<ul style="list-style-type: none"> ・経年劣化、異常発生による故障 	<ul style="list-style-type: none"> ・湿度調節器の交換(P. 11, P17参照)
⑨	正常動作 (遅延運転動作)	<ul style="list-style-type: none"> ・コンプレッサ保護のため、3分間の遅延運転機能が動作している状態 	<ul style="list-style-type: none"> ・3分間待機する(P. 16参照)
⑩	オーバークレント リレー動作(手動復帰)	<ul style="list-style-type: none"> ・吸込空気温湿度が範囲外で使用している(高温高湿度条件) 	<ul style="list-style-type: none"> ・手動で復帰(P. 21 図10-2参照) <p><復帰後の対処></p> <ul style="list-style-type: none"> ・条件範囲内(P. 21 図10-1)で運転 <p>※頻発時、⑫コンプレッサー故障可能性</p>
⑪	オーバードリレー 動作(自動復帰)	<ul style="list-style-type: none"> ・吸込空気温湿度が範囲外で使用している(高温高湿度条件) 	<ul style="list-style-type: none"> ・条件範囲内(P. 21 図10-1)で運転
⑫	コンプレッサー故障	<ul style="list-style-type: none"> ・経年劣化、異常発生による故障 ・吸込空気温湿度が範囲外で使用している 	<ul style="list-style-type: none"> ・コンプレッサー交換(修理依頼) <p><修理後の対処></p> <ul style="list-style-type: none"> ・条件範囲内(P. 21 図10-1)で運転
⑬	正常動作(除霜運転中)	<ul style="list-style-type: none"> ・除霜運転中のため、熱交換器が温まっており、除霜運転停止状態 	<ul style="list-style-type: none"> ・除霜運転停止まで待機する(P. 16参照)
⑭	二方弁コイルの故障 (※除霜ランプ点灯時)	<ul style="list-style-type: none"> ・二方弁コイルが故障し、除霜運転不可 ※除霜ランプは点灯したまま 	<ul style="list-style-type: none"> ・二方弁コイルの交換(修理依頼)
⑮	冷媒漏れ	<ul style="list-style-type: none"> ・銅管部の腐食、経年劣化による冷媒漏れ 	<ul style="list-style-type: none"> ・漏れ部の補修・交換し、冷媒再封入(修理依頼) <p><修理後の対処></p> <ul style="list-style-type: none"> ・運転環境(腐食成分等)の確認
⑯	風量不足	<ul style="list-style-type: none"> ・エアフィルターが詰まっている ・ファン風量切替え忘れ ※オプション品 DH-D1, DH-FD1施工時 ・接続ダクトが長い ※オプション品 DH-D1施工時 	<ul style="list-style-type: none"> ・エアフィルター清掃、交換(P. 17参照) ・ファンリード線をHi(黒)に切り替える(P. 14参照) ・接続ダクト長さ、圧力損失確認 機外圧損：30/50Pa(50/60Hz)以下目安 ※風量5.5/6.0[m³/min]時
⑰	サーミスタ故障	<ul style="list-style-type: none"> ・経年劣化、異常発生による故障 	<ul style="list-style-type: none"> ・サーミスタ交換
⑱	正常動作(吸込空気 温湿度条件範囲外、 低温環境での使用)	<ul style="list-style-type: none"> ・吸込空気温湿度が範囲外で使用している ・低温環境で使用している 	<ul style="list-style-type: none"> ・条件範囲内(P. 21 図10-1)で運転

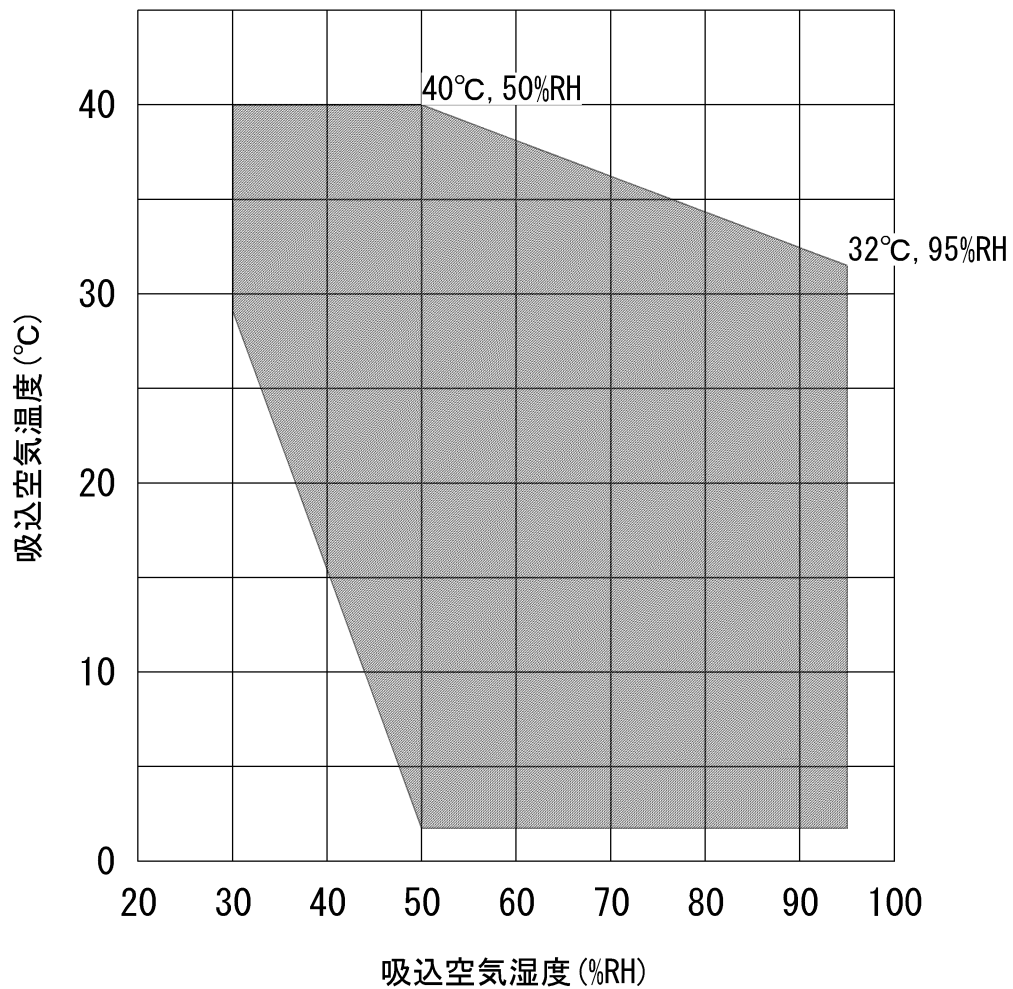


図10-1. 除湿機 (DH-11G) の運転可能範囲

<オーバーカレントリレー (過熱防止) の復帰動作>

オーバーカレントリレーは、機械の保護安全のためについています。動作したときは、原因を取り除いて復帰してください。復帰方法は、電源プラグをコンセントから抜き、左側面パネル (電源コード側) を外し、オーバーカレントリレーのリセットボタン (灰色、角型ボタン) を押してください。

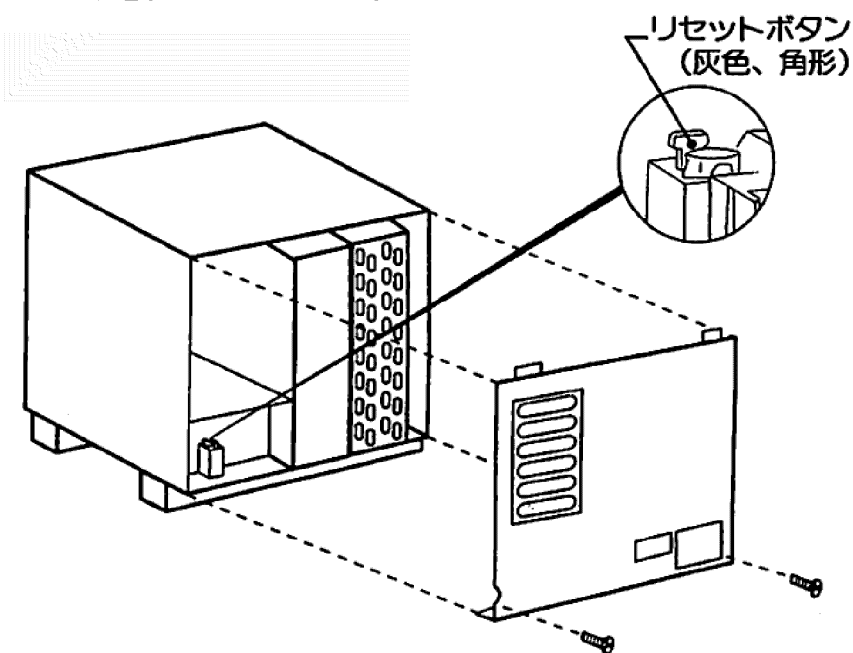
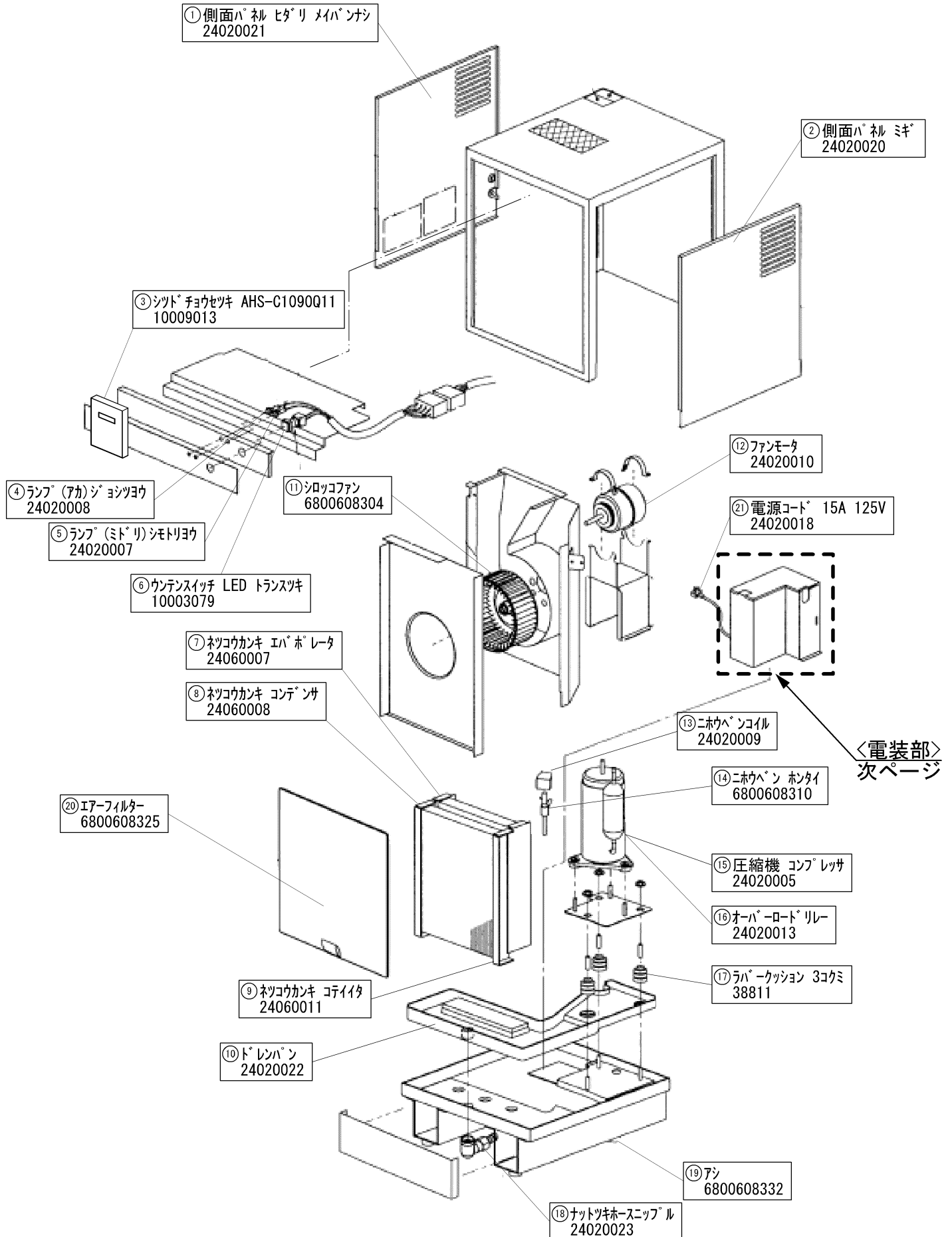


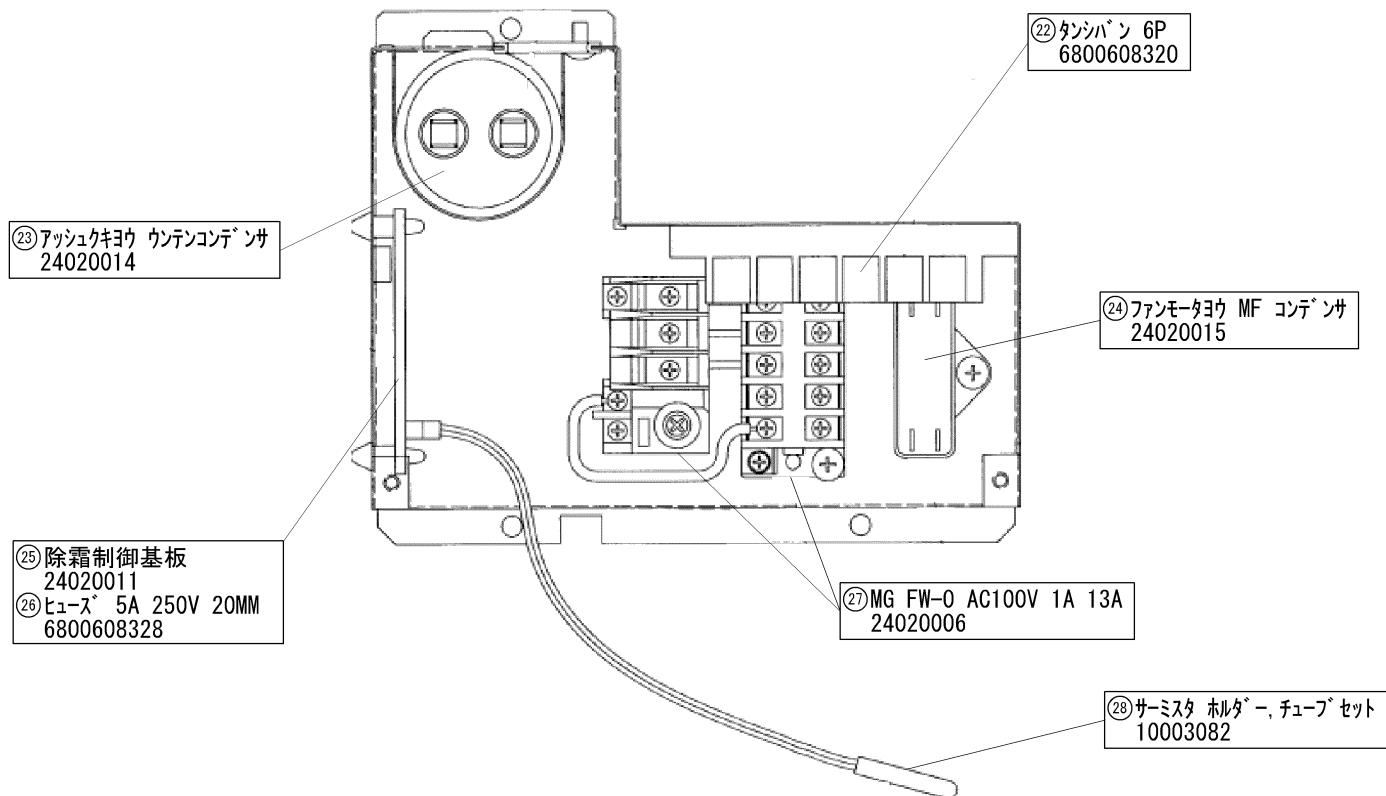
図10-2. オーバーカレントリレーの復帰動作方法

1 1. 補修部品図、部品交換基準

<本体部>



<電装部>



<部品交換基準>

表11-1 部品交換基準

※年間稼働時間3600時間の場合
(10hr/30日/月×12ヶ月/年)

番号	部品コード	部 品 名	必要数量/台	備考	交換時期の目安
1	24020021	側面パネル ヒタリ メイパネ	1		7年または25200時間
2	24020020	側面パネル ミキ	1		7年または25200時間
3	10009013	シフトチョウセツキ AHS-C1090Q11	1		3年または10800時間
4	24020008	ランプ (アカ) ショシツヨウ	1		5年または18000時間
5	24020007	ランプ (ミドリ) シモトリヨウ	1		5年または18000時間
6	10003079	ウンテンスイッチ LED トランスツキ	1		5年または18000時間
7	24060007	ネットワークカンキ エバホレータ	1		7年または25200時間
8	24060008	ネットワークカンキ コンデンス	1		7年または25200時間
7, 8	24060009	ネットワークカンキ ソウクミタテ エバ+コンデ	1		7年または25200時間
9	24060011	ネットワークカンキ コテイイタ	1		7年または25200時間
10	24060022	トレンパン	1		7年または25200時間
11	6800608304	シロココファン	1		5年または18000時間
12	24020010	ファンモータ	1		5年または18000時間
13	24020009	ニホウペンコイル	1		5年または18000時間
14	68006068310	ニホウペンホソタイ	1		5年または18000時間
15	24020005	圧縮機 コンプレッサ	1		5年または18000時間
16	24020013	オーバーロードリレー	1	コンプレッサと併せて交換	5年または18000時間
17	38811	ラハークッション 3コクミ	1	コンプレッサと併せて交換	5年または18000時間
18	24020023	ナットツキホースニツプル	1		7年または25200時間
19	6800608332	アシ	4		5年または18000時間
20	6800608325	エアフィルター	1		1年または3600時間
21	24020018	電源コード 15A 125V	1		5年または18000時間
22	6800608320	タンパン 6P	1		5年または18000時間
23	24020014	アッシュクキヨウ ウンテンコンデンス	1		5年または18000時間
24	24020015	ファンモータヨウ MF コンデンス	1		5年または18000時間
25	24020011	除霜制御基板	1		5年または18000時間
26	6800608328	ヒューズ 5A 250V 20MM	1		5年または18000時間
27	24020006	MG FW-0 AC100V 1A 13A	1		5年または18000時間
28	10003082	サーミスタ ホルダー, チューブセット	1	センサーホルダー, チューブ付	5年または18000時間

<MEMO>

12. 簡易点検(フロン排出抑制法)について

本製品は、第一種特定製品に分類されており、フロン排出抑制法に則った「簡易点検」を実施する対象となっているため、管理者(ユーザー)が点検を行い、冷媒の漏洩や機器故障が確認された場合は、可能な限り速やかに必要な措置を実施することが義務となっております。
下記内容について、ご確認頂き「簡易点検」の実施・管理をお願い致します。

(1) 点検内容

- ・ 機器の異常運転音、異常振動
- ・ 機器外観の損傷、摩耗、腐食、錆び、劣化
- ・ 機器および周辺からの油漏れ
- ・ 熱交換器への多量の霜付着

※可能な範囲で検査を実施(点検が困難な周囲状況、技術的能力 等)

(2) 点検頻度

3ヶ月に1回以上(稼働していない機器についても点検が必要)

(3) 簡易点検の記録について

点検日時、内容を記録し保存することが必要となります。次ページの「簡易点検チェックシート」をご使用頂き、点検および記録を行ってください。

フロン排出抑制法 第一種特定製品
①フロン類をみだりに大気中に放出することは禁じられています。
②この製品を廃棄・整備する場合には、フロン類の回収が必要となります。
③廃棄する場合にフロン類の回収を行わない機器の引取り等は禁止されています。

13. 保証期間

<保証期間>

保証期間はご購入いただいた日から1年間です。
万が一、正しい使用方法にもかかわらず故障した場合は、消耗品を除いて無償修理致します。

保証期間においても、特に下記のような場合は有償修理となります。

- ・カタログ、説明書や仕様書などに記載されている以外の不適切な条件、環境、取り扱い、使用方法などに起因した故障の場合
- ・弊社の許可なき改造による故障および損傷
- ・ご購入後の落下、輸送上の故障および損傷
- ・火災、落雷、地震等天変地異による故障および損傷
- ・本機以外の他の機械装置、基礎、建屋の不良により誘発された故障

尚、本機の故障により誘引する生産の停止、建屋、備品、機器の損傷等その他一切の二次的な損失に関しましては、保証の対象外とさせていただきます。

250305



ピーエス工業株式会社

東京	〒151-0063	東京都渋谷区富ヶ谷1-1-3	TEL 03-3485-8811	FAX 03-3485-8833
名古屋	〒466-0854	名古屋市昭和区広路通5-9-3	TEL 052-838-5525	FAX 052-838-5526
大阪	〒564-0062	大阪府吹田市垂水町3-16-3	TEL 06-6338-7151	FAX 06-6338-7187
福岡	〒812-0041	福岡市博多区吉塚1-45-33	TEL 092-710-6365	FAX 092-710-6368
熊本	〒860-0028	熊本市中唐人町1	TEL 096-356-2201	FAX 096-356-2269

ピーエスグループ各社

札幌	〒061-1112	北広島市共栄4-1-3	TEL 011-372-7601	FAX 011-372-8886
盛岡	〒020-0013	盛岡市愛宕町1-6-5	TEL 019-653-3780	FAX 019-653-3784
仙台	〒980-0801	仙台市青葉区木町通1-2-28	TEL 022-211-5431	FAX 022-211-5434
新潟	〒950-2022	新潟県新潟市西区小針6-61-13	TEL 025-230-6393	FAX 025-230-6394
長野	〒380-0928	長野市若里1-23-11	TEL 026-228-4334	FAX 026-227-4328

<https://ps-group.co.jp/>